



まち・ひと・しごと創生

小菅村人口ビジョン



平成 27 年 12 月策定（第 1 版）

小 菅 村

目次

1. 小菅村人口ビジョンの策定にあたって	3
1) 小菅村人口ビジョン策定の背景	3
2) 政府による「長期ビジョン」の概要	3
3) 小菅村人口ビジョンの位置づけ	4
4) 小菅村人口ビジョンの対象期間	4
2. 小菅村の人口の現状分析	5
1) これまでの人口の推移	5
2) 人口の年齢構成	6
3) 人口の年齢構成の推移	7
4) 合計特殊出生率の推移	8
5) 近年の人口動態	9
6) 産業別の従事者数	10
3. 何も対策をしない場合の将来人口の推計	11
1) 推計の方法	11
2) 推計の結果	12
4. 対策を行う場合の将来人口の推計	13
1) 推計の方法	13
2) 推計の結果	15
5. 村民の意識等の把握	26
1) 村民を対象としたアンケート調査	26
2) 村民を対象としたヒアリング調査	28
6. 目指すべき将来展望人口の設定と分析	31
1) 将来展望人口	31
2) 将来展望人口の分析	33
3) 将来展望人口のまとめ	36

1. 小菅村人口ビジョンの策定にあたって

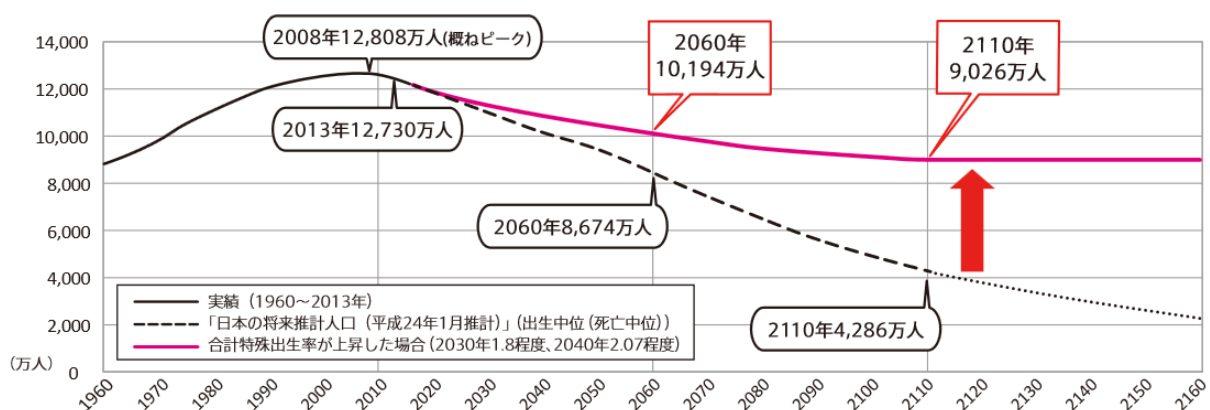
1) 小菅村人口ビジョン策定の背景

我が国では、2008年より人口減少時代に入っており、この傾向は今後加速度的に進行すると予想されています。人口減少に伴って生じる消費、経済力の低下は、我が国の社会経済の大きな負担となるものです。国内全体、特に地方の人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある社会を維持していくことを目的として、政府は平成26年に「まち・ひと・しごと創生法」を公布しました。これに基づき、国の人口の現状と将来展望を示し、今後の目指すべき方向性を示す「まち・ひと・しごと長期ビジョン」と、2015～2019年（5か年）の目標や施策の方向性、具体的施策をまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」がそれぞれ策定されました。

さらに創生法は全ての都道府県と市町村に対して、これらの長期ビジョン、総合戦略を勘案しつつ、地域の実情に応じた独自の「地方人口ビジョン」および「地方版総合戦略」の策定に努めるよう求めています。

2) 政府による「長期ビジョン」の概要

国立社会保障人口問題研究所の推計（平成24年1月推計）によれば、我が国の人口は2060年時点で8674万人まで減少する見込みとなっています。政府はこうした人口問題に取り組む上での基本的な視点として、①「東京一極集中の是正」、②「若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現」、③「地域の特性に即した地域課題の解決」の3点を提示しました。これらの実現を通じて、人口減少への歯止めと人口構造の若返りを達成し、2060年時点での人口1億人の維持が目標として提示されました。



図表 1-1 我が国の人口の推移と長期的な見通し

出典 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」（出生中位（死亡中

3) 小菅村人口ビジョンの位置づけ

「小菅村人口ビジョン」は、まち・ひと・しごと創生法に基づき、本村における「地方人口ビジョン」として、本村における人口の現状を分析し、村民へのヒアリング調査等から人口に関する村民の意識・意向を明らかにし、そのうえで、目指すべき将来の方向性と将来展望人口を提示するものです。

なお「小菅村人口ビジョン」は本村の最上位計画である第4次小菅村総合計画をはじめ、その他の既存計画との整合を考慮し、今後、まち・ひと・しごと創生の目的と理念を達成するための重要な基礎となるべく策定を行っています。

4) 小菅村人口ビジョンの対象期間

「小菅村人口ビジョン」では、国の「長期ビジョン」の推計期間に合わせて、2015年から2060年までの期間を対象とします。

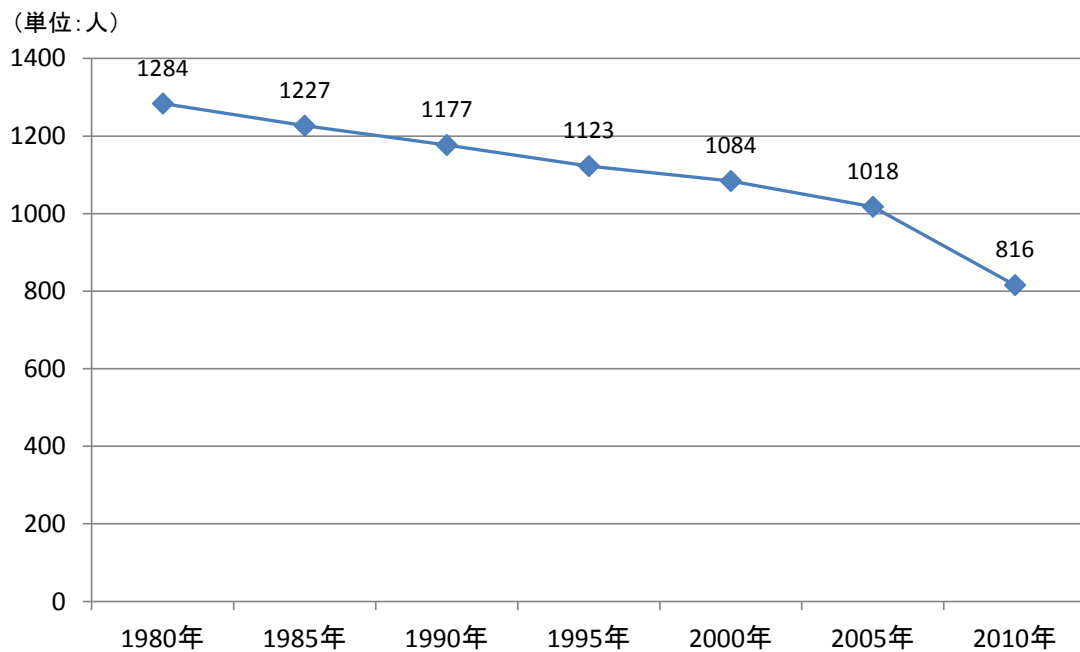
2. 小菅村の人口の現状分析

1) これまでの人口の推移

まず、国勢調査結果に基づき、1980年から2010年の小菅村の人口の推移を下図に示します。

1980年から2010年にかけて、一貫して人口は減少傾向にあることが分かります。

2005年までは人口1000人を維持していましたが、2010年調査時に816人となりました。特に2005年から2010年にかけての減少が顕著であるため、人口減少対策が喫緊の課題であることが分かります。



図表 2-1 総人口の推移

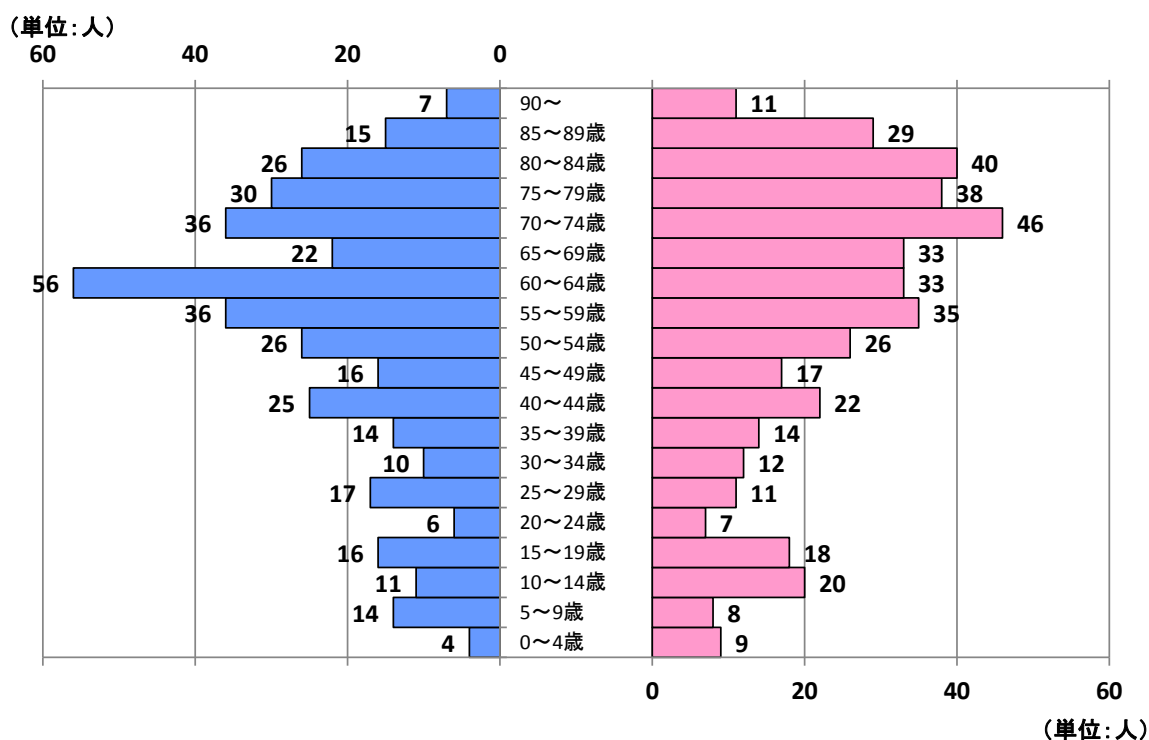
出典 国勢調査

2) 人口の年齢構成

次に、2010年時点の小菅村の人口の年齢構成を下図に示します。

第一次ベビーブームの団塊の世代（60～64歳）や、第二次ベビーブーム（40～44歳）の団塊ジュニア世代に該当する年齢階級の人口の構成比の高さなど、人口構造における一般的な特徴がみられます。

また15～19歳から20～24歳の年齢階級にかけて、人口の急激な流出がみられますが、これは高校卒業時の就職や進学などの要因によるものと考えられます。全体的に高齢者の多い年齢構成となっており、今後は若い世代の移住・定住を促進していかなければ、人口の維持が難しいと言えます。



図表 2-2 小菅村の人口ピラミッド

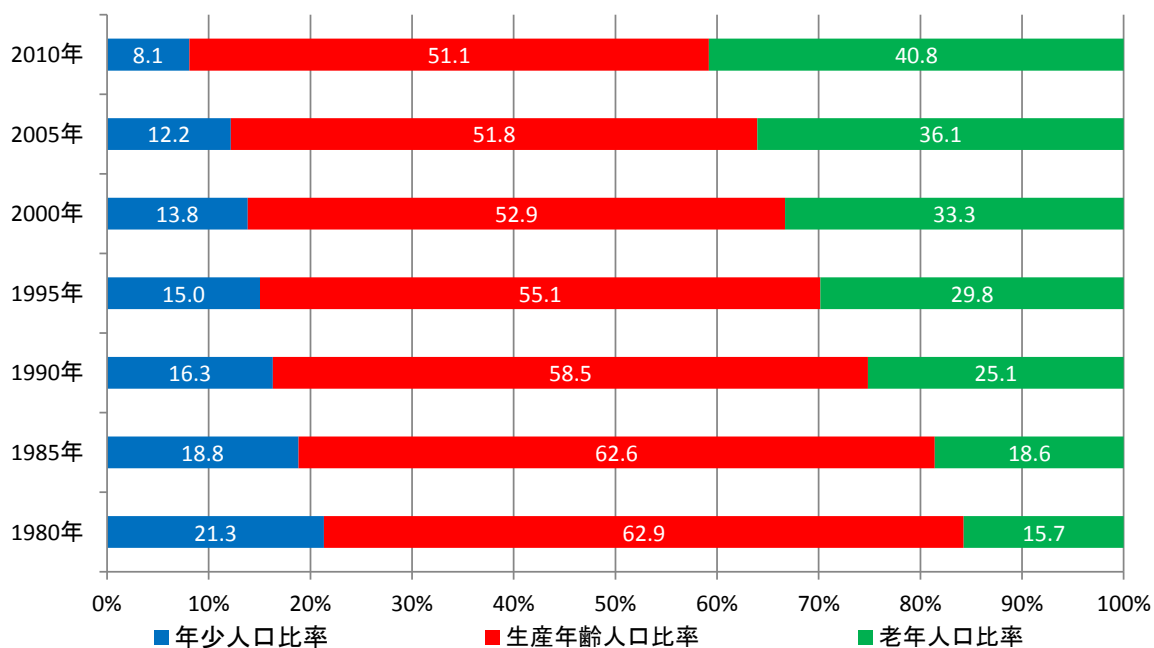
出典 2010年国勢調査

3) 人口の年齢構成の推移

人口の年齢構成の推移を、年少人口（15歳未満）・生産年齢人口（15歳以上 65歳未満）・老年人口（65歳以上）の年齢三区分別の人口割合で示したのが下図になります。

1980年から2010年にかけて、年少人口比率は約13%、生産年齢人口も約12%低下し、それに伴って老年人口比率は約25%増加しています。全体的にみれば、高齢化の傾向が継続的に続いているといえます。

2010年の年少人口比率はわずか8%となっており、前項で示した人口減少の傾向と相まって、将来の村の担い手に不安を残す状況となっています。



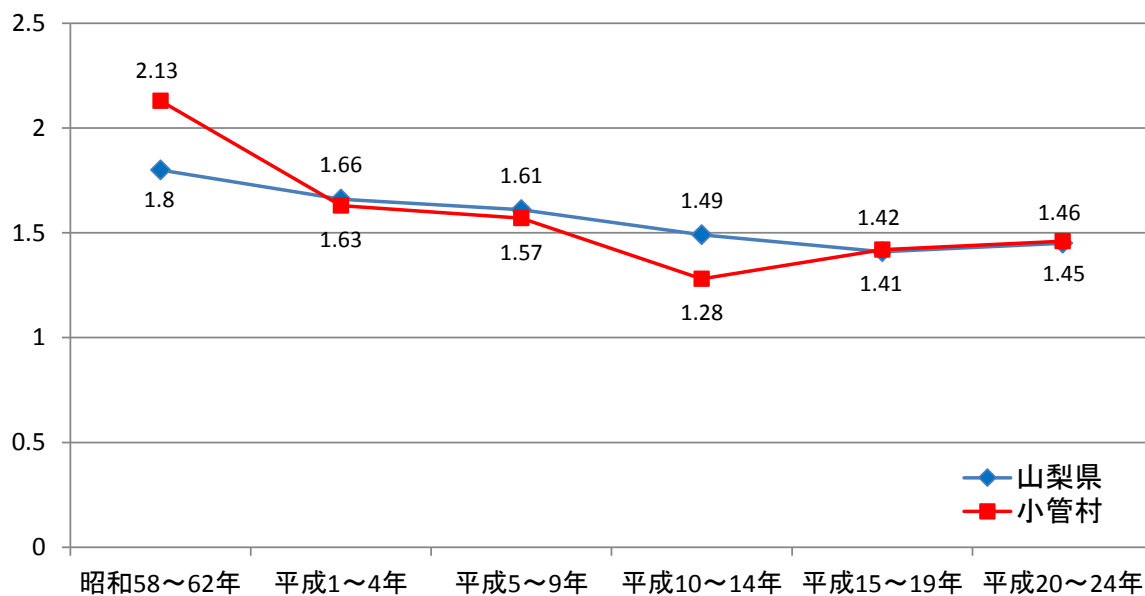
図表 2-3 年齢3区分別人口比率の推移

出典 国勢調査

4) 合計特殊出生率の推移

次に小菅村の合計特殊出生率（一人の女性が一生に産む子供の平均数）の推移を示したのが下図になります。

小菅村の合計特殊出生率は昭和58～62年では2.13と山梨県の平均より高い水準にありましたが、平成以降は減少に転じ、平成10～14年には1.28と過去30年で最も低水準になりました。平成15年以降はやや回復し、現在は1.46となっていますが、これは山梨県の平均とほぼ同値となっています。



図表 2-4 合計特殊出生率(ベイズ推定値)の推移

出典 人口動態保健所・市町村別統計

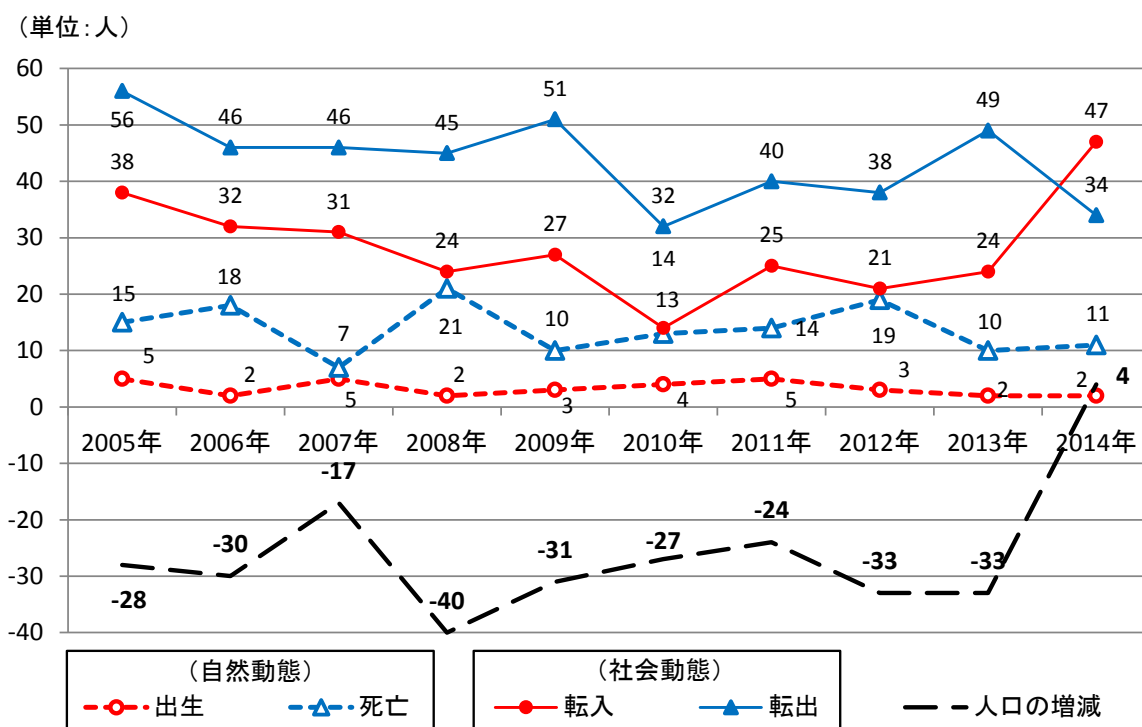
5) 近年の人口動態

以上で過去 30 年程度の人口に関する各種指標の大まかな推移を見てきましたが、次に過去 10 年間の詳細な人口動態を見てみます。

自然動態（出生・死亡）については、過去 10 年間で死亡数はほぼ 10~20 人、出生数は 2~5 人で推移しており、人口動態上の大きなインパクトはみられませんでした。社会動態（転入・転出）については、転入と転出は 2010 年までは減少し、以降はともに増加するという傾向が確認できます。

両方の増減数とタイミングがほぼ一致していたため、社会動態は 2013 年までは常にマイナスでしたが、2014 年に過去 10 年間で初めて転入が転出を上回りました。このことが人口動態に与えるインパクトは大きく、それまで毎年減少していた人口が、2014 年には 4 人の増加に転じました。

近年の本村では、地域おこし協力隊や自然環境に惹かれた移住者の増加、2014 年の松姫トンネルの開通や、村の全国メディアへの露出など、人口動態において正に作用する要因が多く生じました。2014 年の人口増加は、これらの要因が複雑に作用して生じたものだと考えられます。



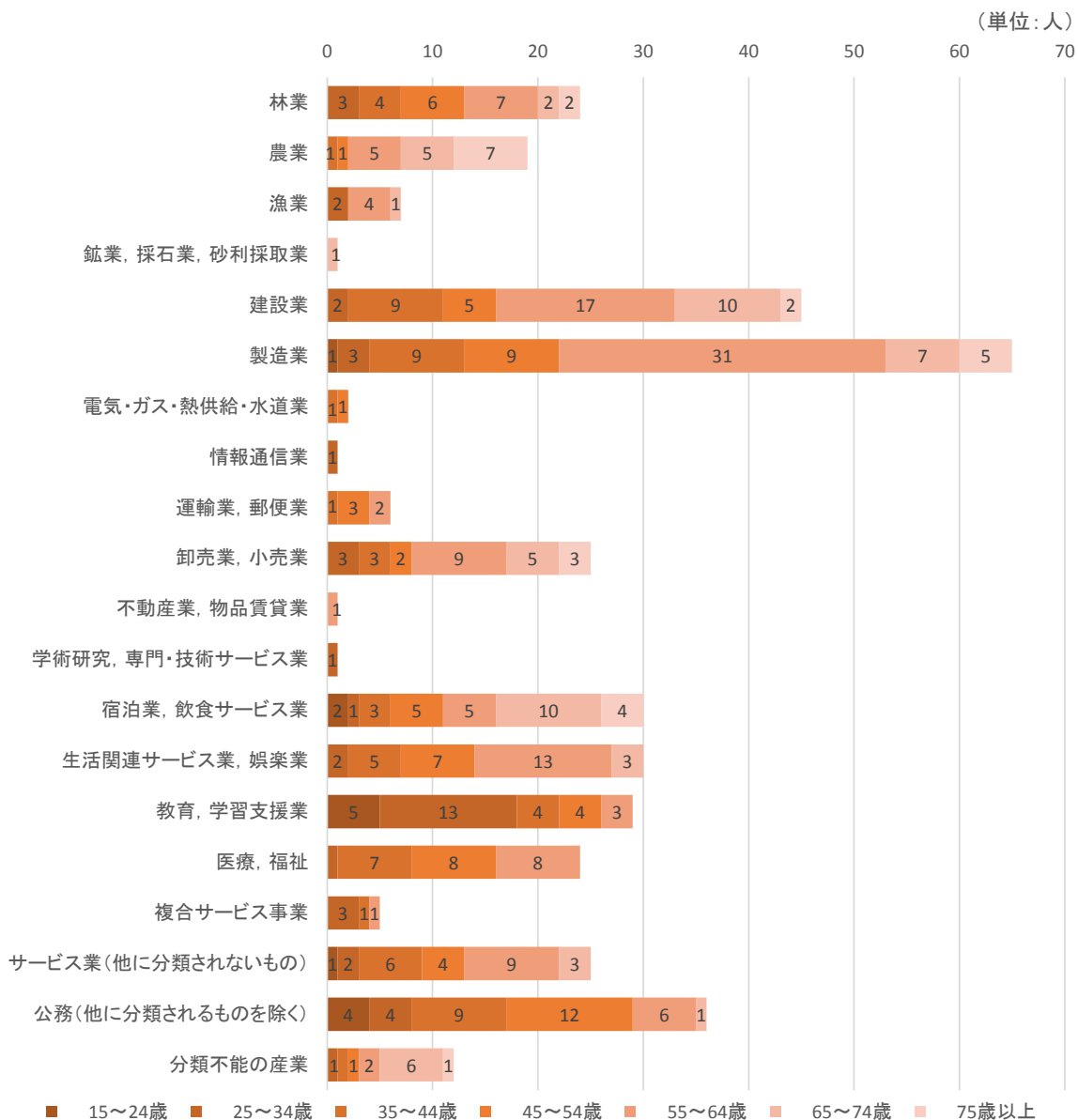
図表 2-5 近年の人口動態の推移

出典 小菅村資料

6) 産業別の従事者数

最後に、産業別の従業者数を下図に示します。従事者数は製造業、建設業が大きくなっています。ただし、45歳未満の従事者の割合は、4割を切っており、高齢化が進んでいる状況がみられます。一方で、林業は、45歳未満の従事者が半数以上を占め、比較的若い職場であるといえます。

宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス、卸売業・小売業、農業は、自営業としての従事者が多いと考えられます。教育・学習支援業、医療・福祉、公務は、公務員としての従事者が多いと考えられます。



図表 2-6 産業別従業者数

出典 2010年国勢調査

3. 何も対策をしない場合の将来人口の推計

以上で整理した現状を踏まえ、次に将来人口の推計を行います。まず、本章では、「何も対策をしない場合、こうなるであろうと考えられる人口」の推計を行います。

1) 推計の方法

(1) 推計期間

国の「長期ビジョン」の推計期間に合わせて、2015年から2060年までを推計の対象期間とします（5年ごとに推計値を算出）。基準年として、2010年のデータ（国勢調査結果）を用います。

(2) 推計方法

コーホート要因法という人口推計の手法を用いて推計を行います。コーホート要因法は、5歳ごとに区切られた年齢階級（コーホート）に対して、自然動態と社会動態のそれぞれの要因に将来値を仮定することで、将来人口を推計する手法です。

本推計では、①生存率、②純移動率、③年齢階級別出生率、④出生性比、の4点に仮定値を設定しています。

(3) 仮定値

①生存率

2015～2040年までの各期間で、『日本の地域別将来推計人口（平成25年度3月推計）』における推計値を用いました。2045年以降は、近年における生存率伸長の傾向を反映させるため、上記の推計値の過去の3局面の変化率平均を直近の値に乗ずることで、仮定値を算出しています。

②純移動率

2015～2040年までの各期間で、『日本の地域別将来推計人口（平成25年度3月推計）』における推計値を用いました。2045年以降は、上記の推計における2040年の値を用いました。

③年齢階級別出生率

2015～2060年までの各期間で、『人口動態保健所・市区町村別統計（平成20～24年）』における、直近の年齢階級別出生率の実績値を用いました。

④出生性比

2015～2060年までの各期間で、『人口動態保健所・市区町村別統計（平成20～24年）』における、直近の出生性比の実績値を用いました。

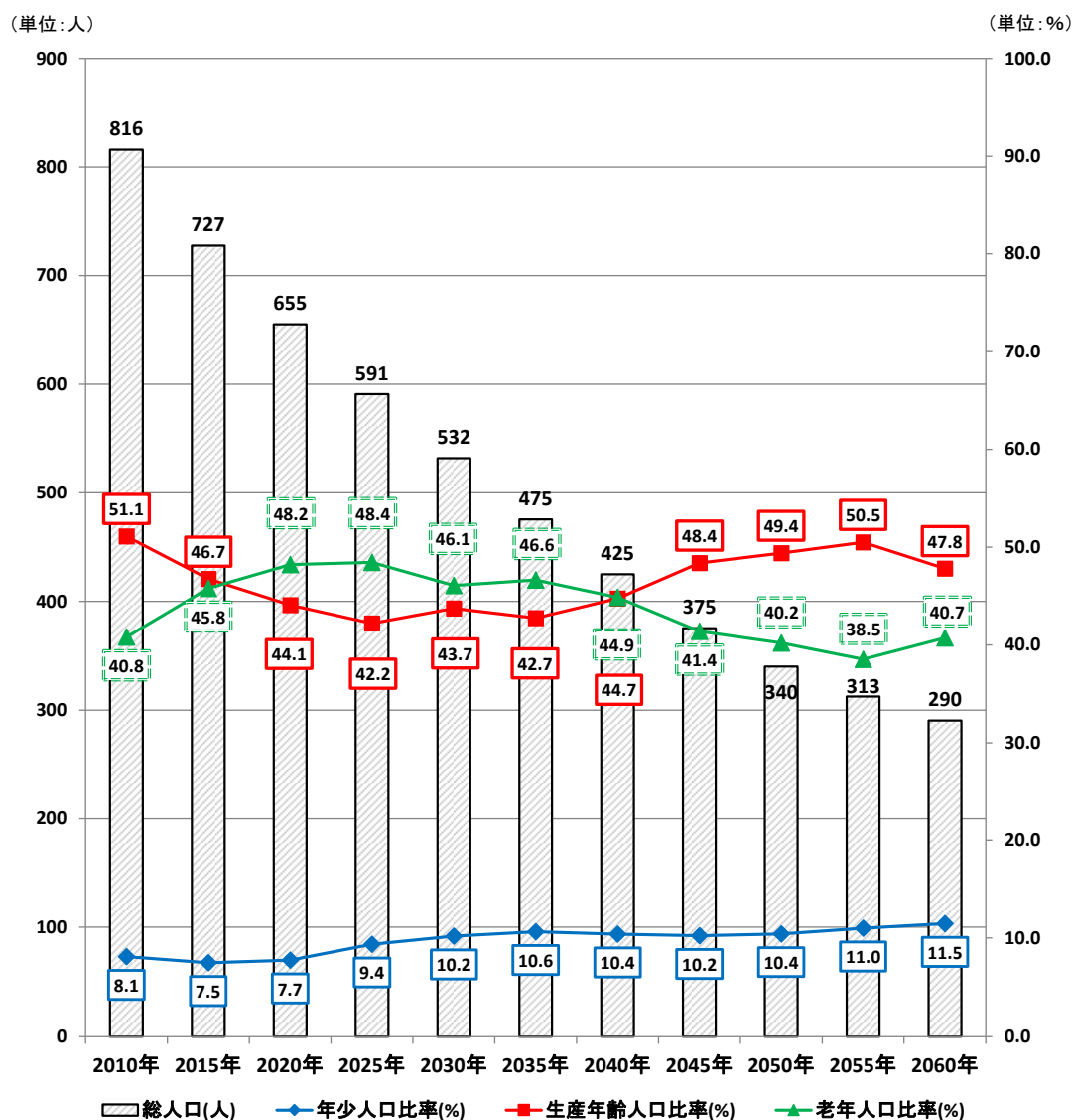
2) 推計の結果

平成22年度(2010年度)の国税調査の結果を基準とし、各種数値に仮定値を設定した上で、小菅村の将来人口の推計を行いました。結果は以下のグラフの通りとなります。

2010年以降、年齢3区分別人口比率はほぼ現状を維持しますが、総人口は一貫して下落基調を保ち、2060年には人口300人を下回る結果となりました。

年齢3区分別人口の推移をみると、年少人口比率は微増傾向を続け、2060年には11.5%を達成します。生産年齢人口比率、老年人口比率はともに増減はありますが、2010年の実績値と2060年の推計値には大きな差は見られませんでした。

全体的には現在とほぼ同水準の人口構成比率の維持と、急激な人口減少という厳しい結果が確



年度	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口(人)	816	727	655	591	532	475	425	375	340	313	290
年少人口比率(%)	8.1	7.5	7.7	9.4	10.2	10.6	10.4	10.2	10.4	11.0	11.5
生産年齢人口比率(%)	51.1	46.7	44.1	42.2	43.7	42.7	44.7	48.4	49.4	50.5	47.8
老年人口比率(%)	40.8	45.8	48.2	48.4	46.1	46.6	44.9	41.4	40.2	38.5	40.7

図表3-1 何も対策をしない場合の将来人口の推計結果

4. 対策を行う場合の将来人口の推計

次に、何かしら対策を行った場合、前章で推計した「何も対策をしない場合、こうなるであろうと考えられる人口」がどのように変化するかを、様々な仮定値を算入することで推定します。

1) 推計の方法

(1) 推計の目的

前節での推計結果を考慮しつつ、各数値に将来値を仮定することで、小菅村の将来人口を検討します。

(2) 推計方法

前章の推計方法で示した手順に準じます。その上で、出生率、転入者の年齢階級、転入数にそれぞれ異なる仮定値を設定することで、計 18 パターンの推計を行いました。

(3) 出生率の仮定

①現状のまま推移、②現状より 5%増加、③現状より 10%増加、の 3 パターンを設定しました。それぞれを合計特殊出生率の値は下表のとおりになります。

図表 4-1 合計特殊出生率の仮定

出生率現状	出生率 5%増加	出生率 10%増加
1.46	1.53	1.61

出典 人口動態保健所・市町村別統計をもとに算出

(4) 転入者の年齢階級の仮定

①若者 (25~29 歳)、②ミドル (40~44 歳)、③シニア (50~54 歳)、の 3 パターンを設定しました。

これは仮定した年齢階級以外の層の転入を否定するものではありません。これらのパターンはあくまで現状トレンドの転入の状況に対して、政策誘導分として加算するものとなります。

(5) 転入者数の仮定

「(3) 転入者の年齢層の仮定」で仮定した 3 パターンに対して、①12 人 (男女各 6 人) 転入、②24 名 (男女各 12 名) 転入、の 2 パターンを設定しました。

「(4) 転入者の年齢階級の設定」でも述べた通り、これは政策誘導による増加分として仮定するもので、仮定値の転入者数を転入者の総数とするものではありません。あくまで現状トレンドに対する増加分となります。

(6) 推計のパターン設定

出生率3パターン、転入者の年齢階級3パターン、転入者数2パターンの全ての組み合わせ計18パターンで推計を行うこととした。

図表 4-2 推定のパターン

		転入12人（男女各6人）		
		A 1（若者）	B 1（ミドル）	C 1（シニア）
出生率	①（現状）	①-A 1	①-B 1	①-C 1
	②（5%増加）	②-A 1	②-B 1	②-C 1
	③（10%増加）	③-A 1	③-B 1	③-C 1

		転入24人（男女各12人）		
		A 2（若者）	B 2（ミドル）	C 2（シニア）
出生率	①（現状）	①-A 2	①-B 2	①-C 2
	②（5%増加）	②-A 2	②-B 2	②-C 2
	③（10%増加）	③-A 2	③-B 2	③-C 2

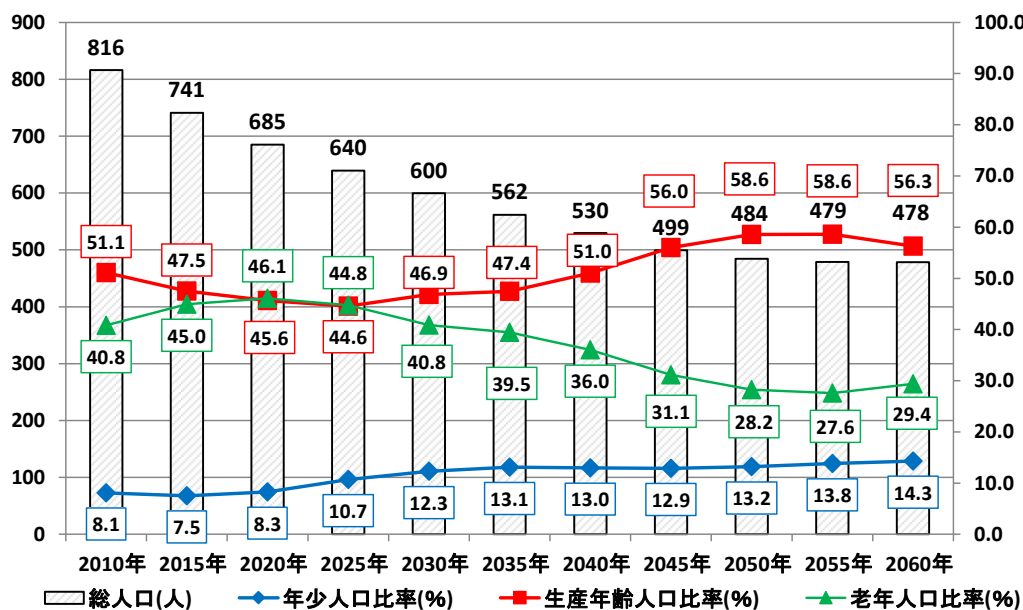
2) 推計の結果

出生率3パターン、転入者の年齢階級3パターン、転入者数2パターンの全ての組み合わせ計18パターンで推計を行った結果を以下に示す。

(1) 出生率現状×若者12人(男女各6名)転入パターン【①-A1】

(単位:人)

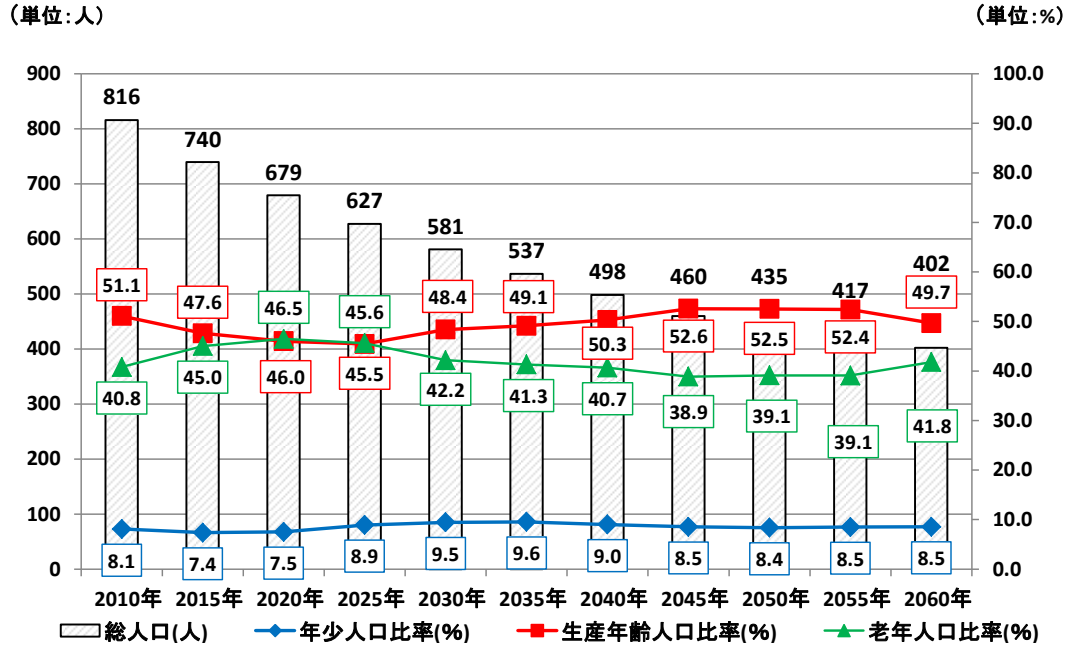
(単位:%)



年度	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口(人)	816	741	685	640	600	562	530	499	484	479	478
年少人口比率(%)	8.1	7.5	8.3	10.7	12.3	13.1	13.0	12.9	13.2	13.8	14.3
生産年齢人口比率(%)	51.1	47.5	45.6	44.6	46.9	47.4	51.0	56.0	58.6	58.6	56.3
老年人口比率(%)	40.8	45.0	46.1	44.8	40.8	39.5	36.0	31.1	28.2	27.6	29.4

図表 4-3 出生率現状×若者12人(男女各6名)転入パターン

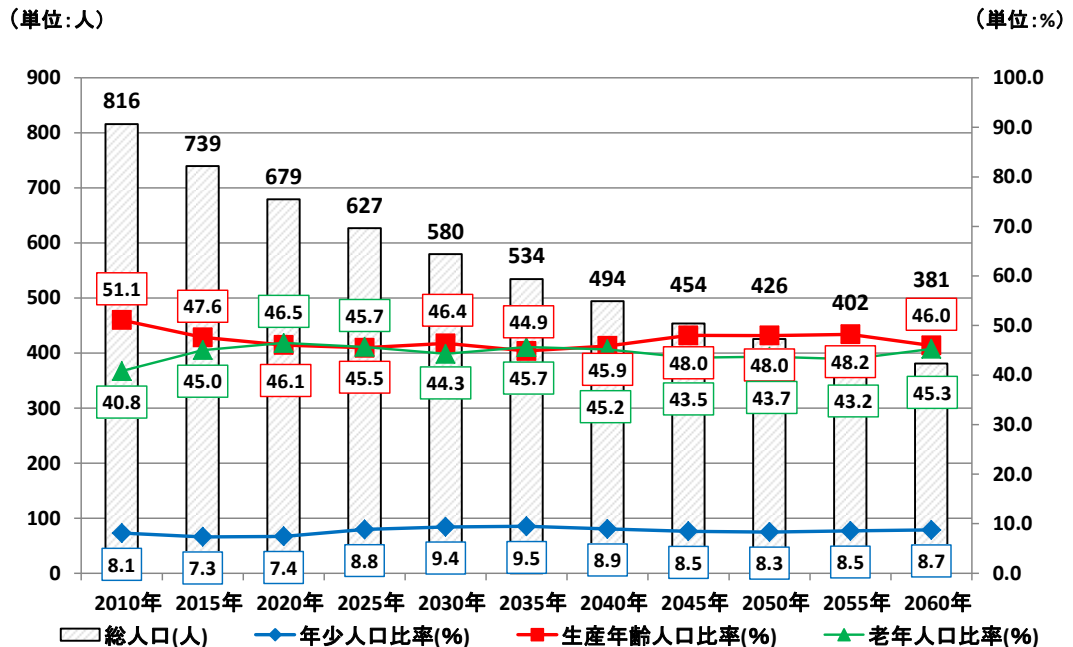
(2) 出生率現状×ミドル12人(男女各6名)転入パターン【①-B2】



年度	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口(人)	816	740	679	627	581	537	498	460	435	417	402
年少人口比率(%)	8.1	7.4	7.5	8.9	9.5	9.6	9.0	8.5	8.4	8.5	8.5
生産年齢人口比率(%)	51.1	47.6	46.0	45.5	48.4	49.1	50.3	52.6	52.5	52.4	49.7
老年人口比率(%)	40.8	45.0	46.5	45.6	42.2	41.3	40.7	38.9	39.1	39.1	41.8

図表 4-4 出生率現状×ミドル12人(男女各6名)転入パターン

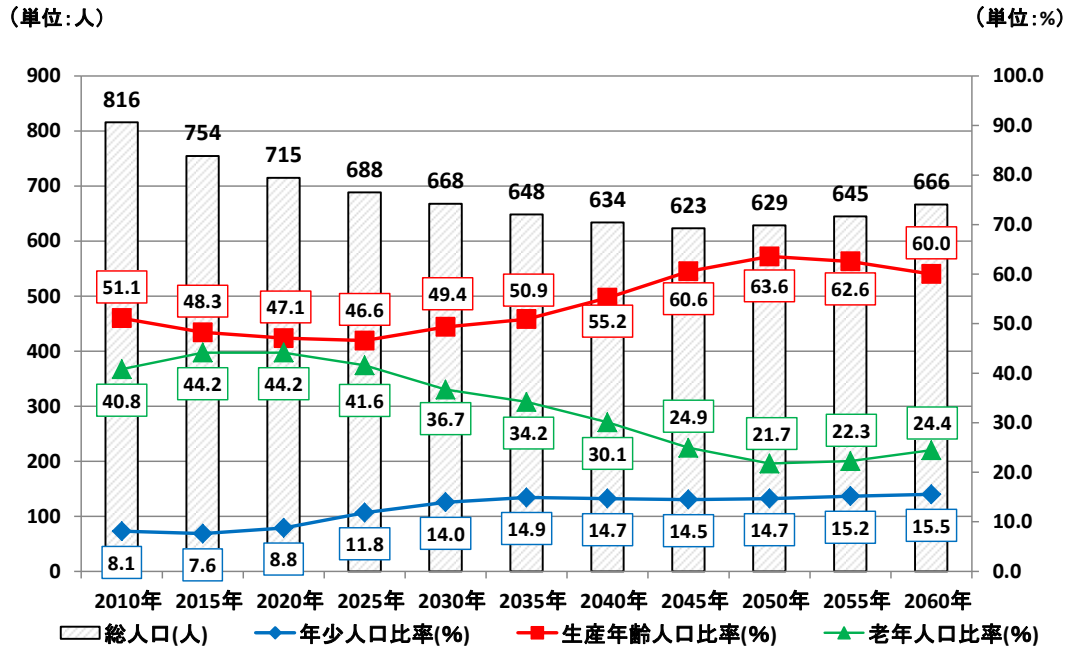
(3) 出生率現状×シニア12人(男女各6名)転入パターン【①-C1】



年度	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口(人)	816	739	679	627	580	534	494	454	426	402	381
年少人口比率(%)	8.1	7.3	7.4	8.8	9.4	9.5	8.9	8.5	8.3	8.5	8.7
生産年齢人口比率(%)	51.1	47.6	46.1	45.5	46.4	44.9	45.9	48.0	48.0	48.2	46.0
老年人口比率(%)	40.8	45.0	46.5	45.7	44.3	45.7	45.2	43.5	43.7	43.2	45.3

図表 4-5 出生率現状×シニア12人(男女各6名)転入パターン

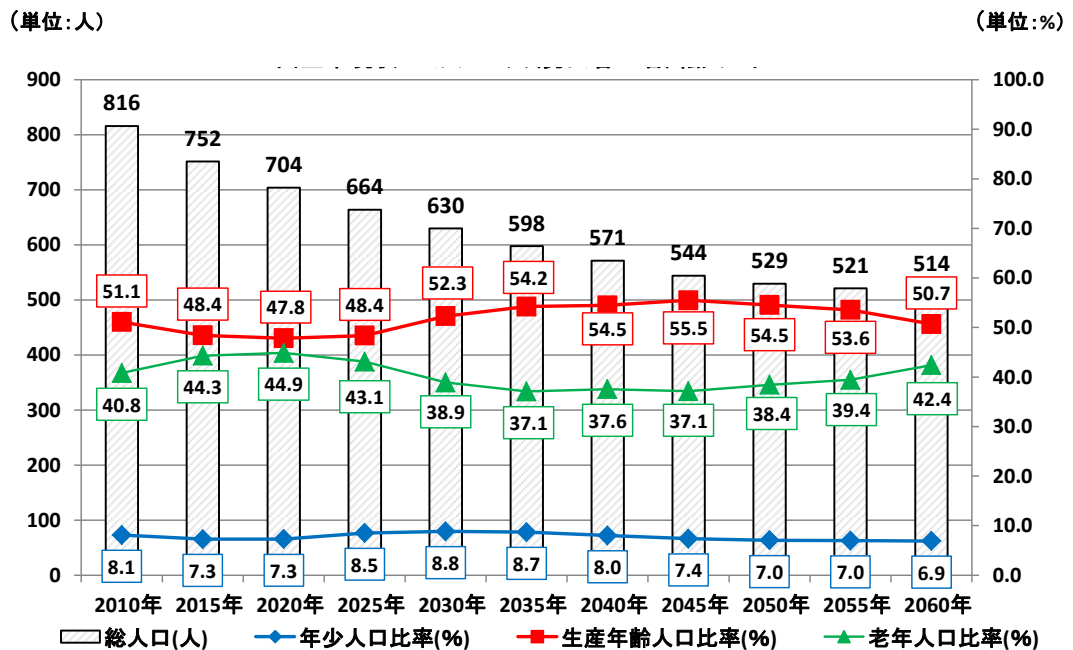
(4) 出生率現状×若者24人(男女各12名)転入パターン【①-A2】



年度	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口(人)	816	754	715	688	668	648	634	623	629	645	666
年少人口比率(%)	8.1	7.6	8.8	11.8	14.0	14.9	14.7	14.5	14.7	15.2	15.5
生産年齢人口比率(%)	51.1	48.3	47.1	46.6	49.4	50.9	55.2	60.6	63.6	62.6	60.0
老年人口比率(%)	40.8	44.2	44.2	41.6	36.7	34.2	30.1	24.9	21.7	22.3	24.4

図表 4-6 出生率現状×若者24人(男女各12名)転入パターン

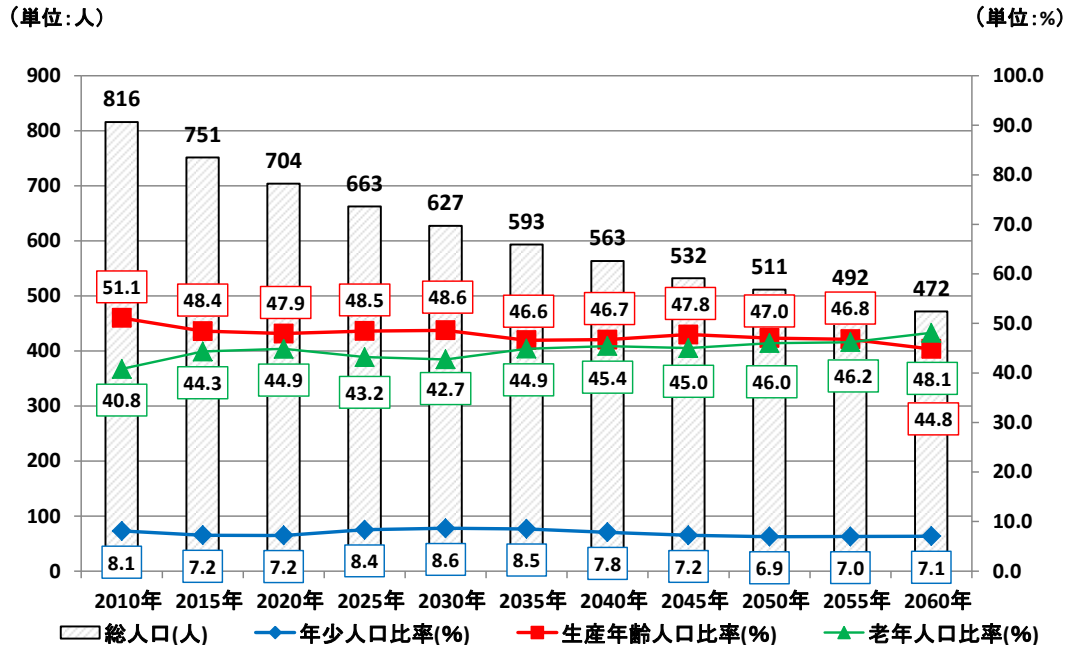
(5) 出生率現状×ミドル24人(男女各12名)転入パターン【①-B2】



年度	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口(人)	816	752	704	664	630	598	571	544	529	521	514
年少人口比率(%)	8.1	7.3	7.3	8.5	8.8	8.7	8.0	7.4	7.0	7.0	6.9
生産年齢人口比率(%)	51.1	48.4	47.8	48.4	52.3	54.2	54.5	55.5	54.5	53.6	50.7
老年人口比率(%)	40.8	44.3	44.9	43.1	38.9	37.1	37.6	37.1	38.4	39.4	42.4

図表 4-7 出生率現状×ミドル24人(男女各12名)転入パターン

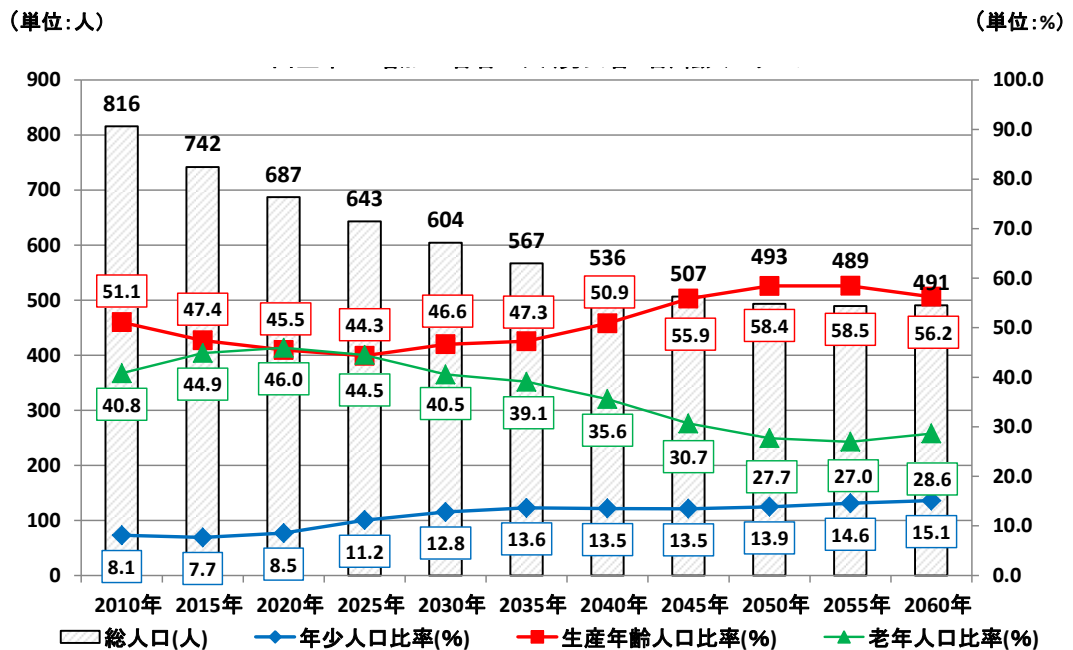
(6) 出生率現状×シニア 24 人 (男女各 12 名) 転入パターン【①-C2】



年度	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口(人)	816	751	704	663	627	593	563	532	511	492	472
年少人口比率(%)	8.1	7.2	7.2	8.4	8.6	8.5	7.8	7.2	6.9	7.0	7.1
生産年齢人口比率(%)	51.1	48.4	47.9	48.5	48.6	46.6	46.7	47.8	47.0	46.8	44.8
老年人口比率(%)	40.8	44.3	44.9	43.2	42.7	44.9	45.4	45.0	46.0	46.2	48.1

図表 4-8 出生率現状×シニア 24 人 (男女各 12 名) 転入パターン

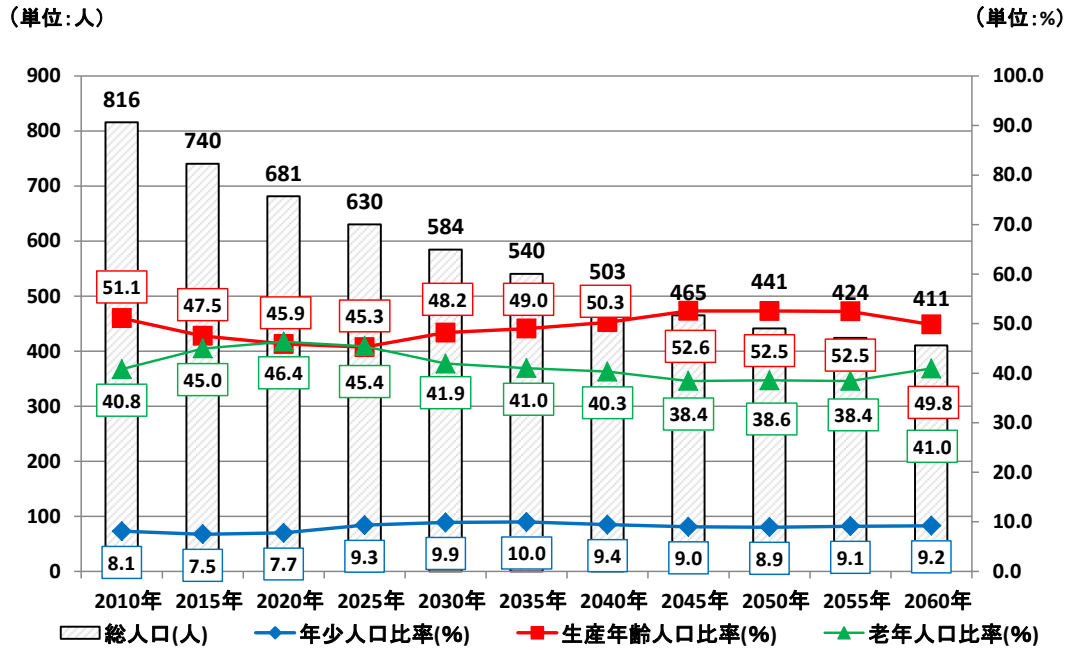
(7) 出生率 5% 増加×若者 12 人 (男女各 6 名) 転入パターン【②-A1】



年度	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口(人)	816	742	687	643	604	567	536	507	493	489	491
年少人口比率(%)	8.1	7.7	8.5	11.2	12.8	13.6	13.5	13.5	13.9	14.6	15.1
生産年齢人口比率(%)	51.1	47.4	45.5	44.3	46.6	47.3	50.9	55.9	58.4	58.5	56.2
老年人口比率(%)	40.8	44.9	46.0	44.5	40.5	39.1	35.6	30.7	27.7	27.0	28.6

図表 4-9 出生率 5% 増加×若者 12 人 (男女各 6 名) 転入パターン

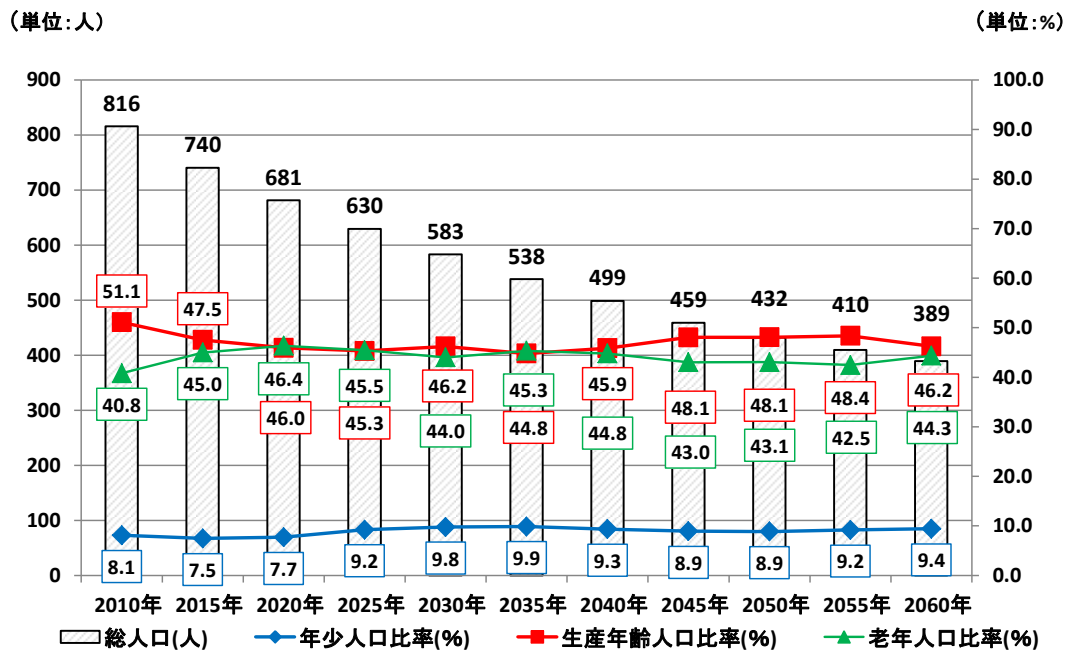
(8) 出生率5%増加×ミドル12人(男女各6名)転入パターン【②-B2】



年度	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口(人)	816	740	681	630	584	540	503	465	441	424	411
年少人口比率(%)	8.1	7.5	7.7	9.3	9.9	10.0	9.4	9.0	8.9	9.1	9.2
生産年齢人口比率(%)	51.1	47.5	45.9	45.3	48.2	49.0	50.3	52.6	52.5	52.5	49.8
老年人口比率(%)	40.8	45.0	46.4	45.4	41.9	41.0	40.3	38.4	38.6	38.4	41.0

図表 4-10 出生率5%増加×ミドル12人(男女各6名)転入パターン

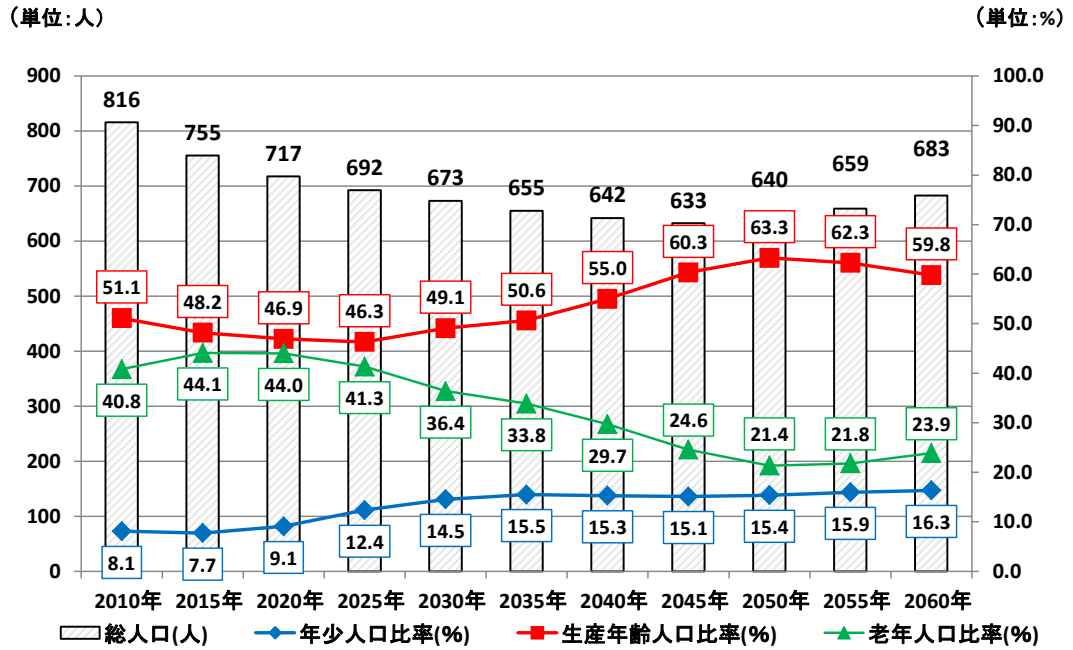
(9) 出生率5%増加×シニア12人(男女各6名)転入パターン【②-C1】



年度	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口(人)	816	740	681	630	583	538	499	459	432	410	389
年少人口比率(%)	8.1	7.5	7.7	9.2	9.8	9.9	9.3	8.9	8.9	9.2	9.4
生産年齢人口比率(%)	51.1	47.5	46.0	45.3	46.2	44.8	45.9	48.1	48.1	48.4	46.2
老年人口比率(%)	40.8	45.0	46.4	45.5	44.0	45.3	44.8	43.0	43.1	42.5	44.3

図表 4-11 出生率5%増加×シニア12人(男女各6名)転入パターン

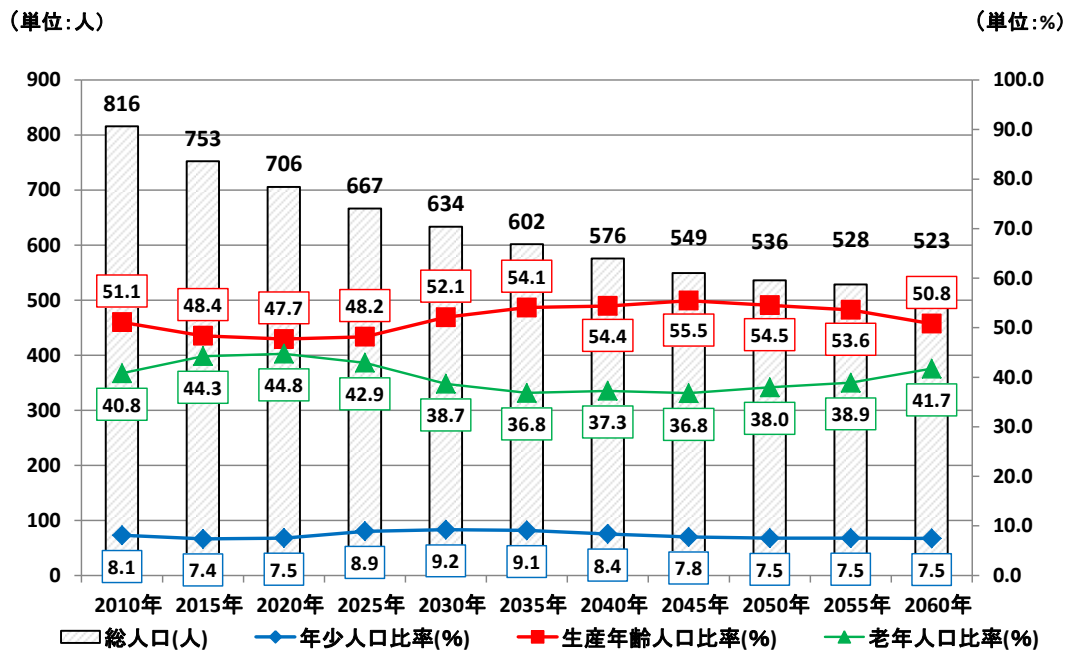
(10) 出生率5%増加×若者24人(男女各12名)転入パターン【②-A2】



年度	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口(人)	816	755	717	692	673	655	642	633	640	659	683
年少人口比率(%)	8.1	7.7	9.1	12.4	14.5	15.5	15.3	15.1	15.4	15.9	16.3
生産年齢人口比率(%)	51.1	48.2	46.9	46.3	49.1	50.6	55.0	60.3	63.3	62.3	59.8
老年人口比率(%)	40.8	44.1	44.0	41.3	36.4	33.8	29.7	24.6	21.4	21.8	23.9

図表 4-12 出生率5%増加×若者24人(男女各12名)転入パターン

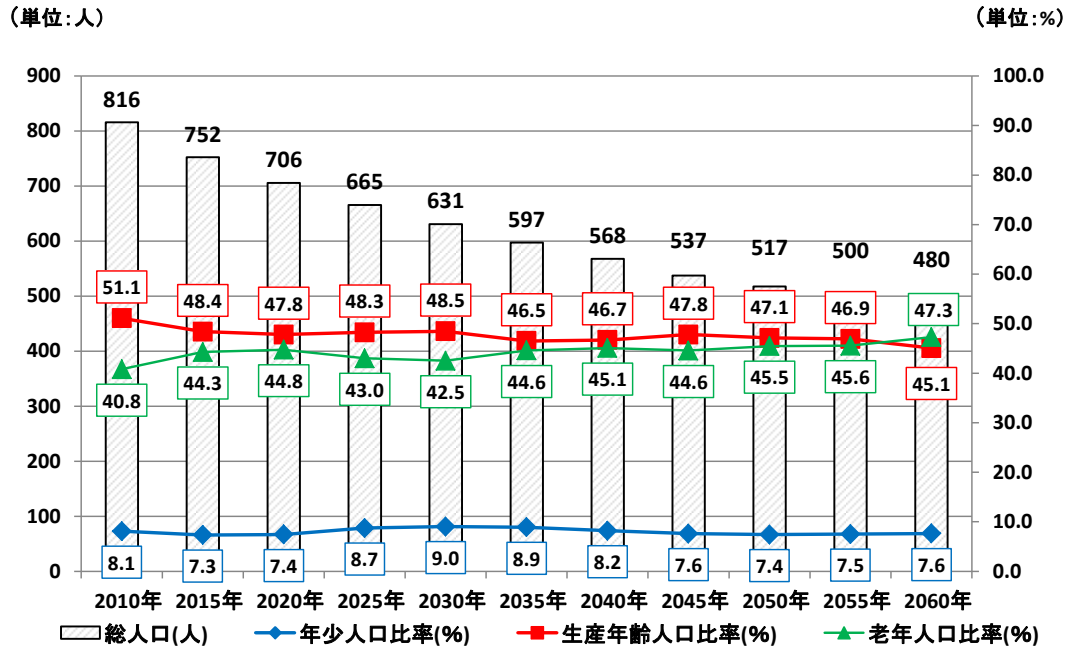
(11) 出生率5%増加×ミドル24人(男女各12名)転入パターン【②-B2】



年度	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口(人)	816	753	706	667	634	602	576	549	536	528	523
年少人口比率(%)	8.1	7.4	7.5	8.9	9.2	9.1	8.4	7.8	7.5	7.5	7.5
生産年齢人口比率(%)	51.1	48.4	47.7	48.2	52.1	54.1	54.4	55.5	54.5	53.6	50.8
老年人口比率(%)	40.8	44.3	44.8	42.9	38.7	36.8	37.3	36.8	38.0	38.9	41.7

図表 4-13 出生率5%増加×ミドル24人(男女各12名)転入パターン

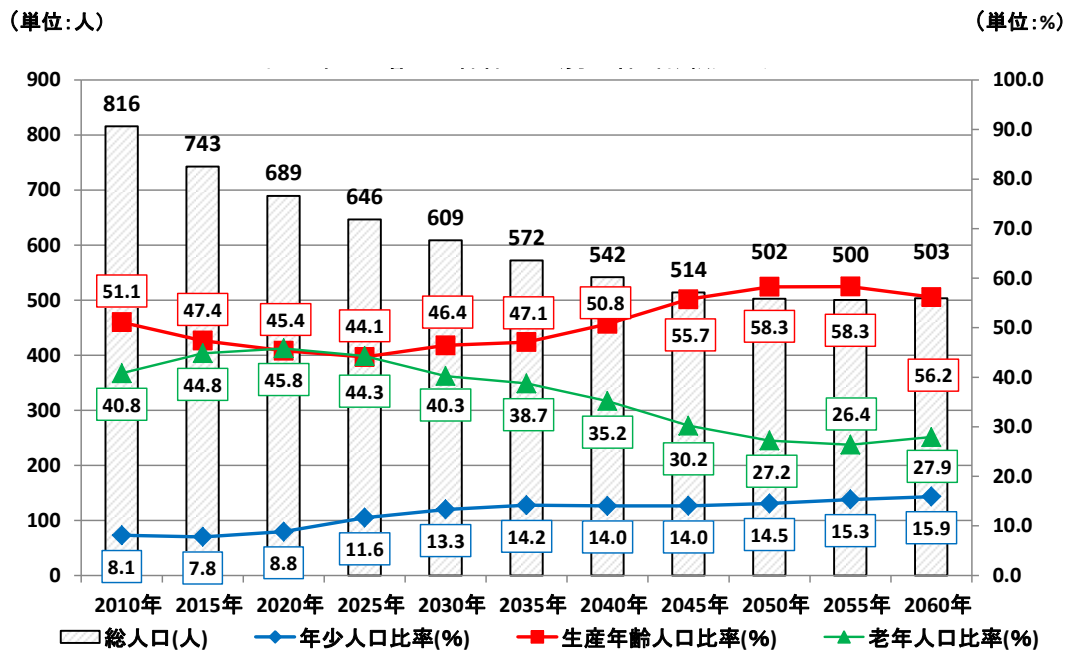
(12) 出生率5%増加×シニア24人(男女各12名)転入パターン【②-C2】



年度	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口(人)	816	752	706	665	631	597	568	537	517	500	480
年少人口比率(%)	8.1	7.3	7.4	8.7	9.0	8.9	8.2	7.6	7.4	7.5	7.6
生産年齢人口比率(%)	51.1	48.4	47.8	48.3	48.5	46.5	46.7	47.8	47.1	46.9	45.1
老年人口比率(%)	40.8	44.3	44.8	43.0	42.5	44.6	45.1	44.6	45.5	45.6	47.3

図表 4-14 出生率5%増加×シニア24人(男女各12名)転入パターン

(13) 出生率10%増加×若者12人(男女各6名)転入パターン【③-A1】

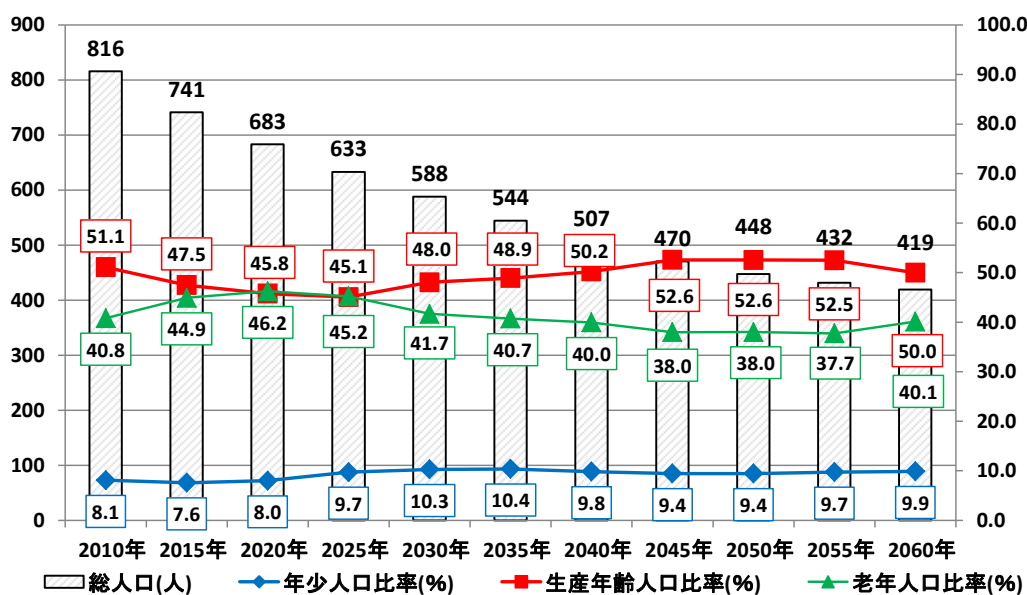


年度	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口(人)	816	743	689	646	609	572	542	514	502	500	503
年少人口比率(%)	8.1	7.8	8.8	11.6	13.3	14.2	14.0	14.0	14.5	15.3	15.9
生産年齢人口比率(%)	51.1	47.4	45.4	44.1	46.4	47.1	50.8	55.7	58.3	58.3	56.2
老年人口比率(%)	40.8	44.8	45.8	44.3	40.3	38.7	35.2	30.2	27.2	26.4	27.9

図表 4-15 出生率10%増加×若者12人(男女各6名)転入パターン

(14) 出生率 10%増加×ミドル 12 人 (男女各 6 名) 転入パターン【③-B1】

(単位:人) (単位:%)

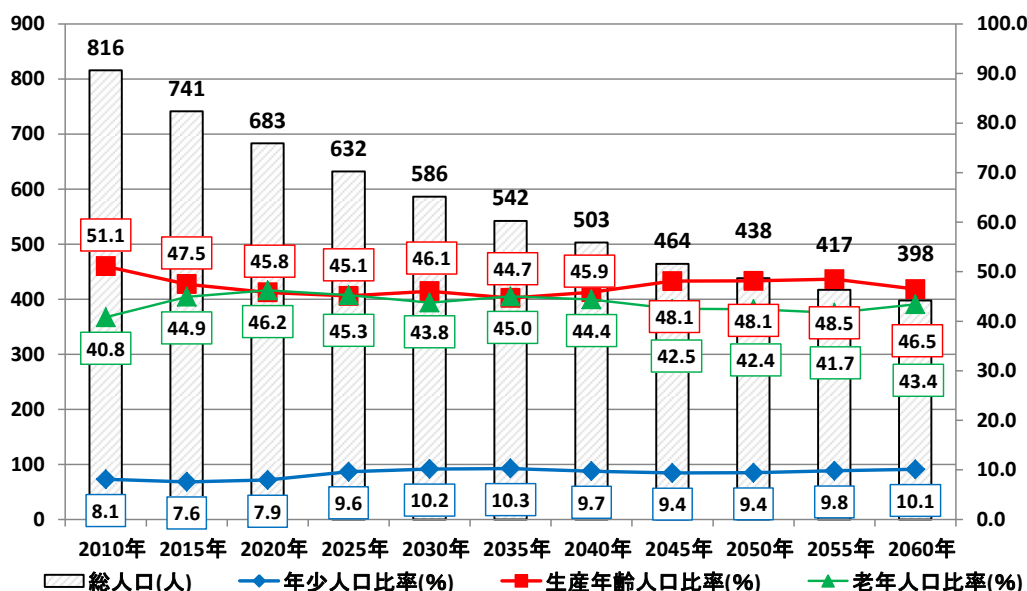


年度	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口(人)	816	741	683	633	588	544	507	470	448	432	419
年少人口比率(%)	8.1	7.6	8.0	9.7	10.3	10.4	9.8	9.4	9.4	9.7	9.9
生産年齢人口比率(%)	51.1	47.5	45.8	45.1	48.0	48.9	50.2	52.6	52.6	52.5	50.0
老年人口比率(%)	40.8	44.9	46.2	45.2	41.7	40.7	40.0	38.0	38.0	37.7	40.1

図表 4-16 出生率 10%増加×ミドル 12 人 (男女各 6 名) 転入パターン

(15) 出生率 10%増加×シニア 12 人 (男女各 6 名) 転入パターン【③-C1】

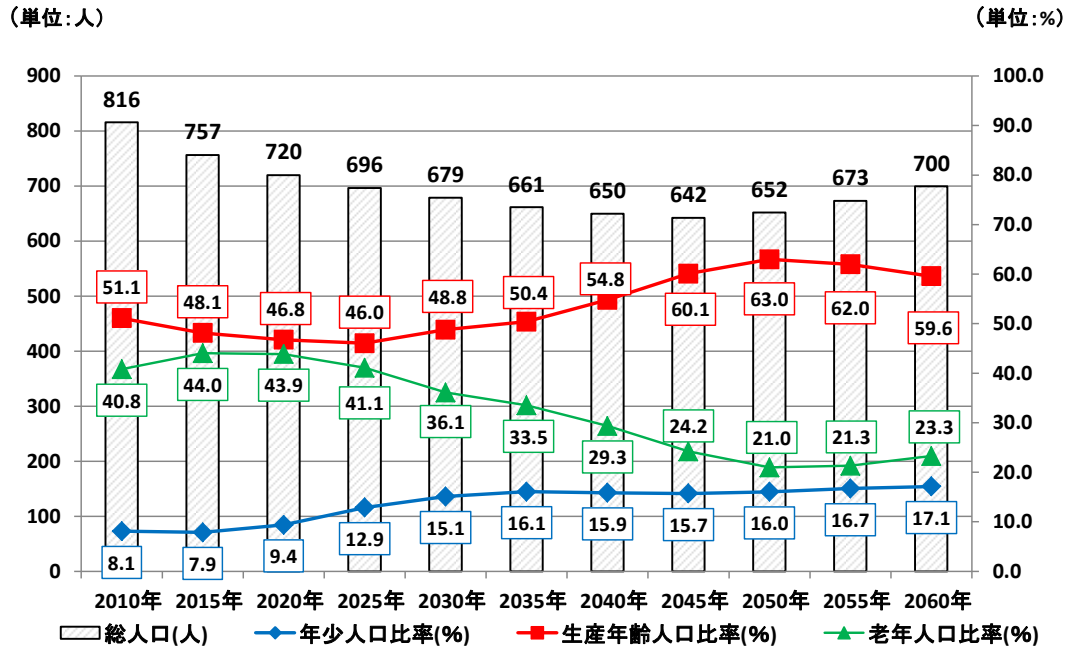
(単位:人) (単位:%)



年度	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口(人)	816	741	683	632	586	542	503	464	438	417	398
年少人口比率(%)	8.1	7.6	7.9	9.6	10.2	10.3	9.7	9.4	9.4	9.8	10.1
生産年齢人口比率(%)	51.1	47.5	45.8	45.1	46.1	44.7	45.9	48.1	48.1	48.5	46.5
老年人口比率(%)	40.8	44.9	46.2	45.3	43.8	45.0	44.4	42.5	42.4	41.7	43.4

図表 4-17 出生率 10%増加×シニア 12 人 (男女各 6 名) 転入パターン

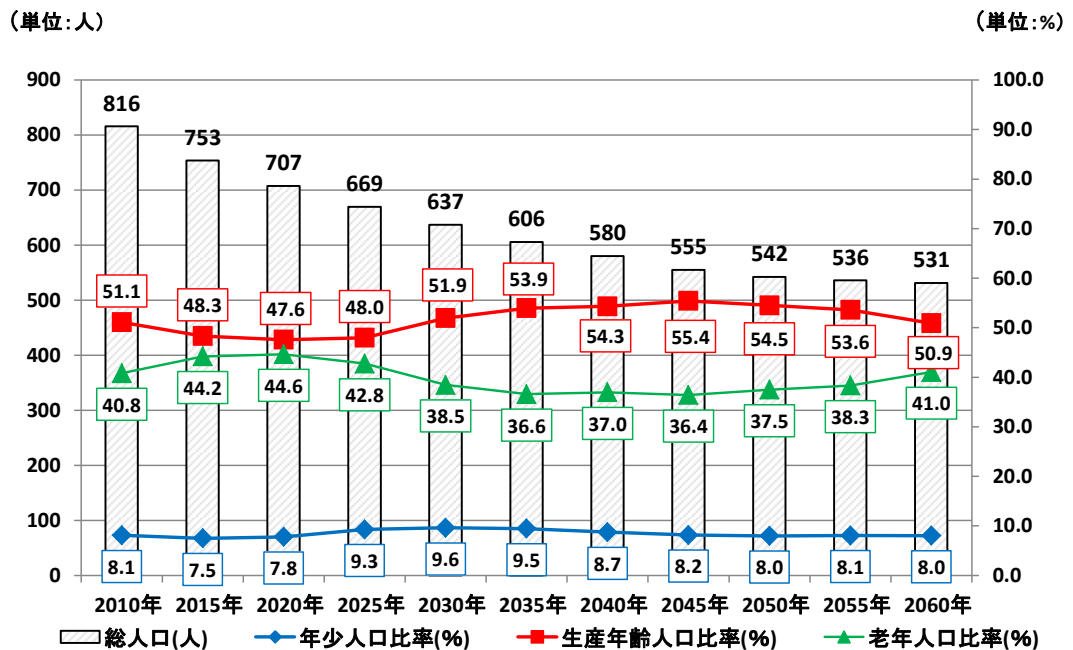
(16) 出生率 10%増加×若者 24 人（男女各 12 名）転入パターン【③-A2】



年度	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口(人)	816	757	720	696	679	661	650	642	652	673	700
年少人口比率(%)	8.1	7.9	9.4	12.9	15.1	16.1	15.9	15.7	16.0	16.7	17.1
生産年齢人口比率(%)	51.1	48.1	46.8	46.0	48.8	50.4	54.8	60.1	63.0	62.0	59.6
老年人口比率(%)	40.8	44.0	43.9	41.1	36.1	33.5	29.3	24.2	21.0	21.3	23.3

図表 4-18 出生率 10%増加×若者 24 人（男女各 12 名）転入パターン

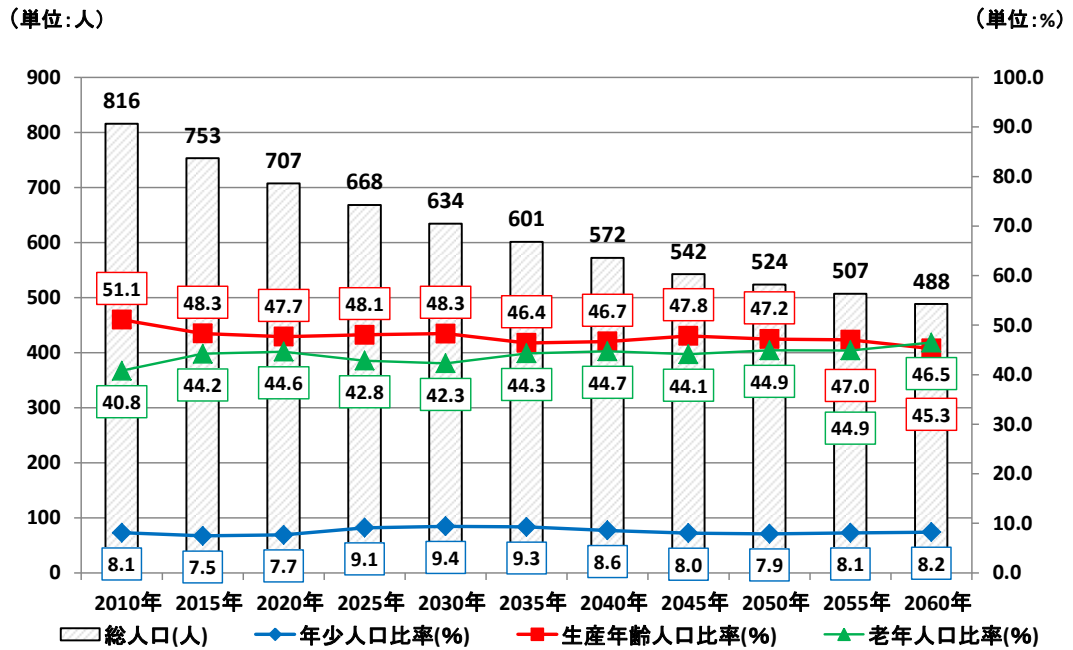
(17) 出生率 10%増加×ミドル 24 人（男女各 12 名）転入パターン【③-B2】



年度	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口(人)	816	753	707	669	637	606	580	555	542	536	531
年少人口比率(%)	8.1	7.5	7.8	9.3	9.6	9.5	8.7	8.2	8.0	8.1	8.0
生産年齢人口比率(%)	51.1	48.3	47.6	48.0	51.9	53.9	54.3	55.4	54.5	53.6	50.9
老年人口比率(%)	40.8	44.2	44.6	42.8	38.5	36.6	37.0	36.4	37.5	38.3	41.0

図表 4-19 出生率 10%増加×ミドル 24 人（男女各 12 名）転入パターン

(18) 出生率 10%増加×シニア 24 人（男女各 12 名）転入パターン 【③-C2】



年度	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口(人)	816	753	707	668	634	601	572	542	524	507	488
年少人口比率(%)	8.1	7.5	7.7	9.1	9.4	9.3	8.6	8.0	7.9	8.1	8.2
生産年齢人口比率(%)	51.1	48.3	47.7	48.1	48.3	46.4	46.7	47.8	47.2	47.0	45.3
老年人口比率(%)	40.8	44.2	44.6	42.8	42.3	44.3	44.7	44.1	44.9	44.9	46.5

図表 4-20 出生率 10%増加×シニア 24 人（男女各 12 名）転入パターン

(19) まとめ

出生率3パターン、転入者の年齢階級3パターン、転入者数2パターンの全ての組み合わせ計18パターンでの推計結果を下表にまとめました。

2040年時点で人口494人～650人、2060年時点で381人～700人と幅がある結果となりました。次章以降で、村民の意識・意向を踏まえ、目標設定及びその目標の実現可能性の検証を行います。

図表 4-21 各パターンの推計結果（まとめ）

		転入 12人 男女各6人)		
		A 1 (若者)	B 1 (ミドル)	C 1 (シニア)
出生率	① 現状)	①-A 1 2040年 530人 2060年 478人	①-B 1 2040年 498人 2060年 402人	①-C 1 2040年 494人 2060年 381人
	② 5%増加)	②-A 1 2040年 536人 2060年 491人	②-B 1 2040年 503人 2060年 411人	②-C 1 2040年 499人 2060年 389人
	③ 10%増加)	③-A 1 2040年 542人 2060年 503人	③-B 1 2040年 507人 2060年 419人	③-C 1 2040年 503人 2060年 398人

		転入 24人 男女各12人)		
		A 2 (若者)	B 2 (ミドル)	C 2 (シニア)
出生率	① 現状)	①-A 2 2040年 634人 2060年 666人	①-B 2 2040年 571人 2060年 514人	①-C 2 2040年 563人 2060年 472人
	② 5%増加)	②-A 2 2040年 642人 2060年 683人	②-B 2 2040年 576人 2060年 523人	②-C 2 2040年 568人 2060年 480人
	③ 10%増加)	③-A 2 2040年 650人 2060年 700人	③-B 2 2040年 580人 2060年 531人	③-C 2 2040年 572人 2060年 488人

5. 村民の意識等の把握

人口の目標設定に向けて、村民を対象としたアンケート調査とヒアリング調査を行いました。

1) 村民を対象としたアンケート調査

(1) 調査方法

①概要

山梨県が県民を対象に実施した「山梨県結婚・出産・子育て等に関する県民アンケート調査」の結果のうち、小菅村民の回答を抽出して分析を行いました。

「山梨県結婚・出産・子育て等に関する県民アンケート調査」は、県内における人口減少の傾向や課題を抽出し、その結果を山梨県まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略に反映させることを目的とした調査で、主に県民の結婚・出産・子育て等に関する意識や希望についてのアンケート調査となっています。

②調査時期

平成 27 年 5 月 1 日（金）～5 月 15 日（金）

③調査対象

本アンケート調査全体では、未婚者 3,119 人（山梨県に在住する 18 歳以上、35 歳未満の未婚男女を無作為抽出）と、既婚者 2,968 人（山梨県に在住する 50 歳未満の夫婦（対象：妻）を無作為抽出）の計 6,087 人を対象にしています。

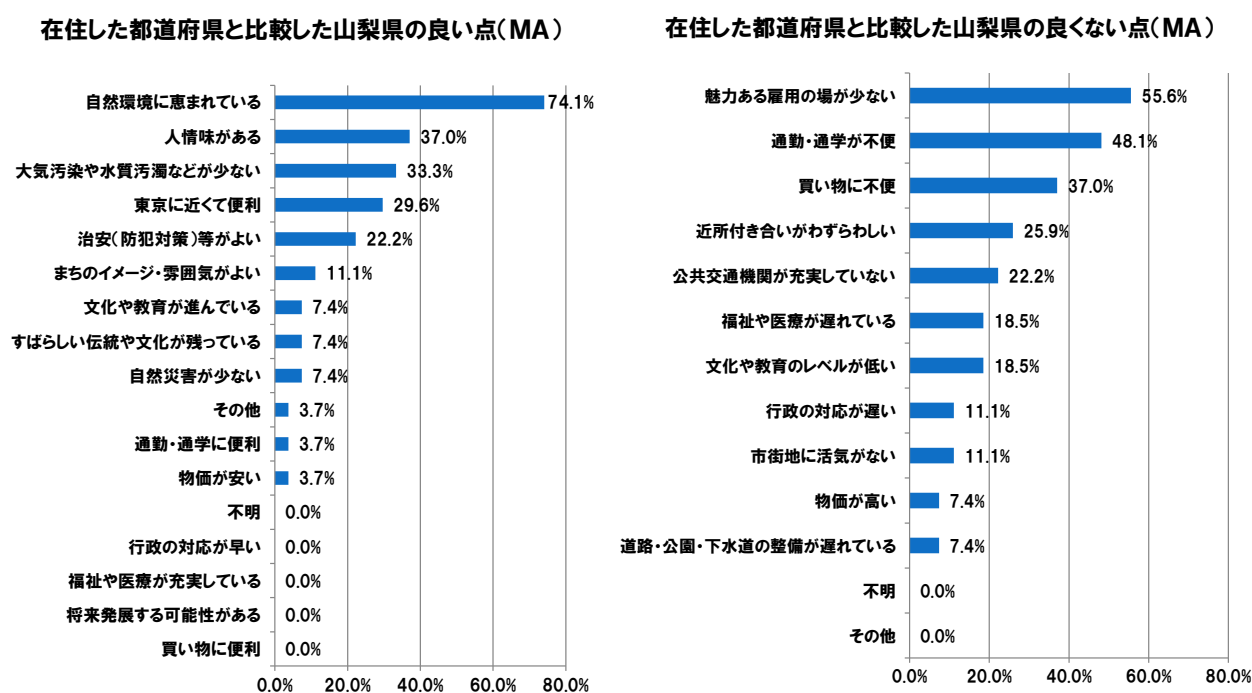
このうち小菅村民の回答 36 人分を抽出して分析しました。

(2) 調査結果

①他地域と比較した良い点・良くない点

県のアンケートでは、山梨県以外の都道府県に居住した経験のある県民に対して、在住した都道府県と比較した山梨県の良い点・良くない点を聞いています。下図は、小菅村民の全回答者 36 名のうち、「山梨県外に在住したことがある」と答えた 27 名の回答を集計したものになります。

良い点としては、「自然環境に恵まれている」「人情味がある」等が上位にあげられています。一方で、良くない点としては「魅力ある雇用の場が少ない」「通勤・通学が不便」が上位にあげられており、村内に雇用の場が少なく、かつ通勤も難しいという状況の中で、村民が雇用に関して不安を感じている状況が明らかになっています。



図表 5-1 在住した都道府県と比較した山梨県の良い点、良くない点

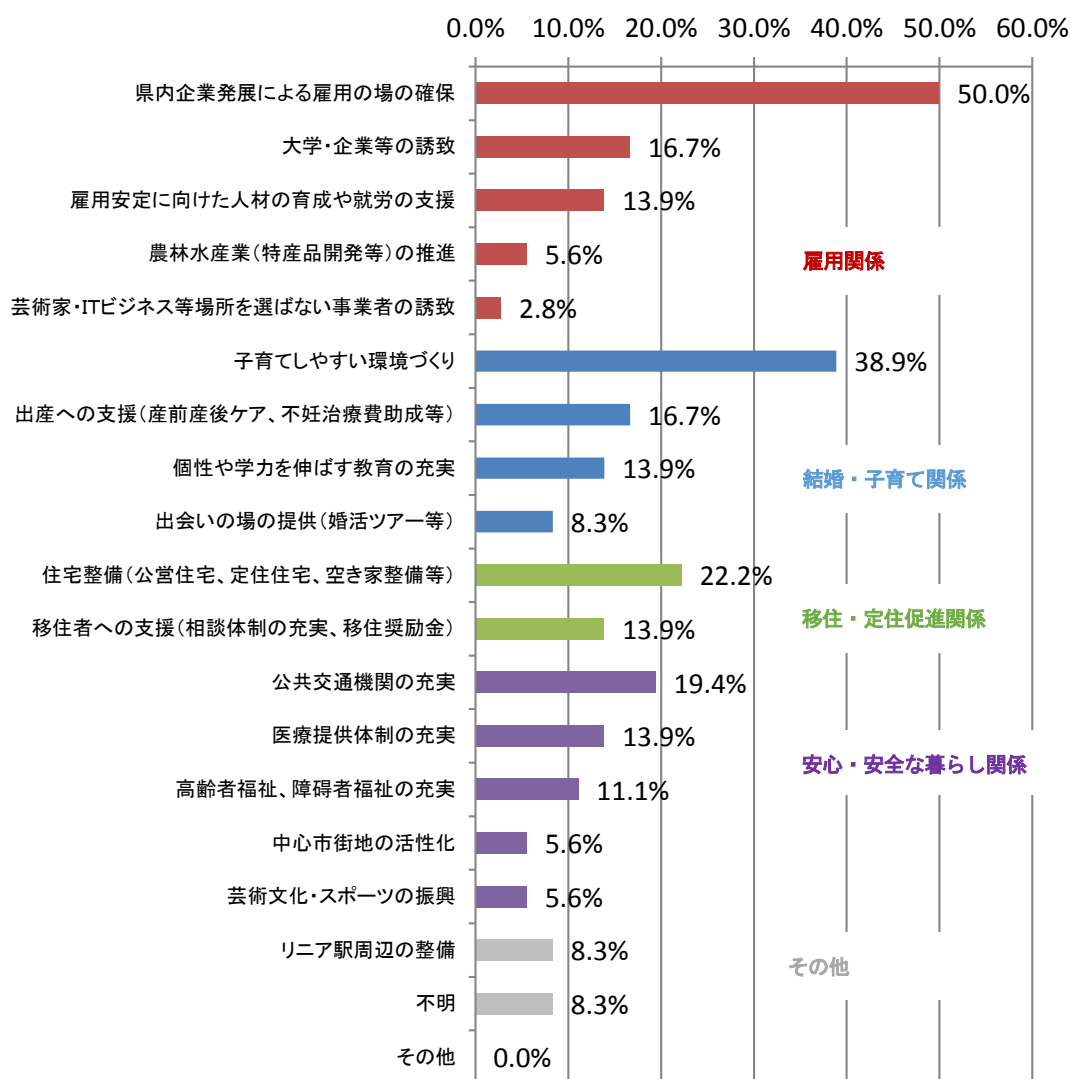
出典 山梨県結婚・出産・子育て等に関する県民アンケート調査

※上図は小菅村民の全回答者 36 名のうち、「山梨県外に在住したことがある」と回答した 27 名が対象。

②人口確保対策として行政が取り組むべき施策

こうした意識は行政への要望にも表れており、人口確保対策として行政に最も望まれる施策は雇用の場の確保となっています。それに次いで回答が多かったのは、より良い子育て環境、住宅整備への要望となっています。

近年の本村では、比較的若い世代の地域おこし協力隊や自然環境に惹かれた移住者の増加がみられますが、それに伴い雇用、保育所、住宅の不足といった問題も出現しています。前項「他地域と比較した良くない点」の上位三点は、主にこうした状況を意識したものとみられます。



図表 5-2 人口確保対策として行政が取り組むべき施策

出典 山梨県結婚・出産・子育て等に関する県民アンケート調査

※上図は小菅村民の全回答者 36 名が対象。

2) 村民を対象としたヒアリング調査

(1) 調査方法

2015年5月から6月にかけて、村役場職員・村内事業者・村民等に対して、対面ヒアリング調査を行い、村が抱える課題と解決の方向性に関する認識、維持したい村の人口水準等を把握、整理しました。

(2) 調査結果

村民へのヒアリング調査から得られた「維持したい村の人口水準」は500～1000人と幅を持つものとなりましたが、その多くは人口の現状維持ないし、現状からのやや増加を目指す意図からなされた回答でした。そのことから、極端な人口増加は望んでいないものの、最低でも現在の人口規模を維持したいとする村民の意向がうかがうことができます。

また、次ページに示す、「人口以外で目標にしたい指標」に関する村民意見では、「若者の比率」「児童生徒数」「子供の数」などが多数あげられており、人口の維持にあたっては、その若返りが強く求められていることが推察できます。特に子どもの数に関しては、人口構成以外にも教育環境の維持という観点からの言及も見られました。

<p><維持したい村の人口の水準> 750人 <その理由> ・ 750人の生業づくりを村の目標に掲げてきた。本当は1000人いれば活気が出ると思うが...</p>	<p><維持したい村の人口の水準> 1000人 <その理由> ・ インフラ維持には、既に人が足りていない。1000人くらいは必要。</p>	<p><維持したい村の人口の水準> 600人 <その理由> ・ 500人代まで減ると交付税がもらえなくなって、村の存続が危くなる。</p>
<p><維持したい村の人口の水準> 1000人 <その理由> ・ 1000人を切って、消防団、自治組織等のコミュニティの維持が難しくなった。</p>	<p><維持したい村の人口の水準> 1400人 <その理由> ・ これくらいいたときが一番村に活気があった。ただあくまでも希望数。</p>	<p><維持したい村の人口の水準> 700人 <その理由> ・ 現状がキープできればそれで十分。</p>
<p><維持したい村の人口の水準> 600人 <その理由> ・ 600人を切ると教育が成り立たなくなる。子供たちの競争意識もなくなる。</p>	<p><維持したい村の人口の水準> 800人 <その理由> ・ 今ある空き家を活用することで住める人数。空き家50軒にプラス100人は住める。</p>	<p><維持したい村の人口の水準> 700人 <その理由> ・ 20代、30代が増えて欲しい。人口自体は増えなくてもいいと思う。</p>
<p><維持したい村の人口の水準> 1000人 <その理由> ・ 少なくとも1000人は欲しい。昔は2000人ほどいた。</p>	<p><維持したい村の人口の水準> 700人 <その理由> ・ あと10年はこの人口を維持したい。これ以上減ったら、村を出る人が急増する。</p>	<p><維持したい村の人口の水準> 700人 <その理由> ・ 700人代をキープしたいが、500人くらいにはなるのではないかな。</p>
<p><維持したい村の人口の水準> 750人 <その理由> ・ 最低でも750人は欲しい。移住者を増やせば、800人くらいまでならいけるだろう。</p>	<p><維持したい村の人口の水準> 500人 <その理由> ・ 減少を緩やかにしていけたらいい。移住者が来たからといって地場産業は維持できない。</p>	<p><維持したい村の人口の水準> 800人～1000人 <その理由> ・ 2000人くらいになったのは異常で、本来村の許容量がそのくらい。</p>

図表 5-3 「維持したい村の人口水準」に関する村民意見

<p><目標設定指標> 児童生徒数 1学年に7人以上</p> <p><その理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 1学年7人以上いれば、複式学級が解消される。学年に1人ずつの国庫負担教員が得られる。 	<p><目標設定指標> 児童生徒数 1学年に5人以上</p> <p><その理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 現状は1学年4人程度だが、教育環境を考えると5人は欲しい。 	<p><目標設定指標> 若者の比率</p> <p><その理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 若者の移住者を増やしたい。
<p><目標設定指標> 児童生徒数 1学年に5人以上</p> <p><その理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもが各学年に5人くらい欲しい。 	<p><目標設定指標> 子どもの数 50人</p> <p><その理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 人口1000人いれば、子どもの数が50人くらいになるのでは。 	<p><目標設定指標> 子どもの数</p> <p><その理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 20代、30代の移住者が増えて、子どもの数が増えるといい。
<p><目標設定指標> 高齢化率</p> <p><その理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 現在高齢化率が46%だが、50%を超えると、コミュニティの役職を果たす人材がいなくなる。 	<p><目標設定指標> 移住者 年間25人</p> <p><その理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 1年間で5世帯くらいの移住が目標。 	<p><目標設定指標> 源流基本法の成立</p> <p><その理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 今、源流基本法の成立に向けて、各所に呼びかけを行っている。
<p><目標設定指標> 医療費</p> <p><その理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 医療費を減らすための具体的な数値目標があれば、各課で対応ができるとし、住民負担が減る。 	<p><目標設定指標> 税金の利用状況</p> <p><その理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 税金の利用状況を明確にしていければと思う。 	<p><目標設定指標> 観光入込客数</p> <p><その理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 現状把握していないが・・・。
<p><目標設定指標> 世帯数</p> <p><その理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 今は家の中で出ていく人がいるという状況だが、これからは世帯数自体が減ってくるだろう。 	<p><目標設定指標> 世帯数</p> <p><その理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 居住地域とスペースを考えると300~350世帯くらいが限界になってくると思う。 	<p><目標設定指標> 海外からの観光客数</p> <p><その理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 海外向けの発信力があるスタッフ、外国人を受け入れられる宿などを増やしていきたい。

図表 5-4 「人口以外で目標にしたい指標」に関する村民意見

6. 目指すべき将来展望人口の設定と分析

1) 将来展望人口

(1) 将来展望人口の設定

前章では、村民の考える本村の将来は現在の人口規模を維持しつつも、年齢構成の若返りを図るという方向性を持つものと考えられました。本推計のパターン設定の中で、上記の村民の意向を最も反映しているものは、【③-A2】出生率10%増加×若者24人転入パターン（出生率10%増加および25～29歳の若者世代が5年ごとに男女各12人転入増するパターン）になります。

このパターンは2060年時点で、相対的に低い老年人口比率(23.3%)と高い年少人口比率(17.1%)を同時に達成しており、加えて生産年齢人口比率も相対的に高い水準(59.6%)を維持する推計結果となっています。また、総人口に関しては、2045年までは微減が続きますが、2050年から増加局面に転じ、2060年は700人を維持しています。

よって、本推計では、まず **2060年の将来展望人口を700人に設定**し、事項以降で、この将来展望人口の実現可能性を検証します。

図表6-1 出生率10%増加および若者24人転入増の場合の将来人口推計

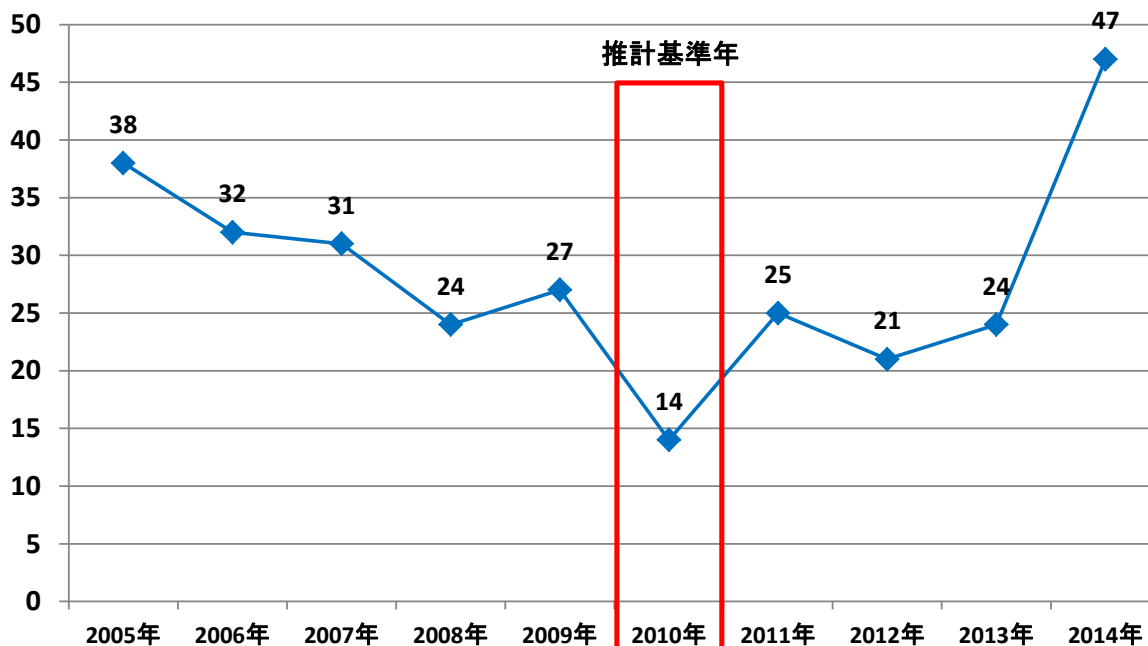
年度	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口(人)	816	757	720	696	679	661	650	642	652	673	700
年少人口比率(%)	8.1	7.9	9.4	12.9	15.1	16.1	15.9	15.7	16.0	16.7	17.1
生産年齢人口比率(%)	51.1	48.1	46.8	46.0	48.8	50.4	54.8	60.1	63.0	62.0	59.6
老年人口比率(%)	40.8	44.0	43.9	41.1	36.1	33.5	29.3	24.2	21.0	21.3	23.3

(2) 将来展望人口の実現可能性

本項では、前項で設定した将来展望人口には、十分な実現可能性があるのか、検証します。本推計では、主に転入者層および転入数と出生率に仮定値を用いるため、それらの観点から可能性を検証します。

本村の過去10年間の転入者数は、2005年から2010年までは減少傾向が続いていましたが、以降は転入者が増加に転じ、2014年には過去10年間で最高の47人を記録しました。この結果、2014年度は人口が+4人の増加に転じるなど、近年の転入の状況には改善が見られます。

(単位:人)



図表 6-2 近年の転入者数の推移

出典 小菅村資料

出生率に関しては、下表のとおり昭和58年から平成14年の期間では、5か年ごとに減少がみられました。しかし平成15年以降は回復し、現在は1.46という値を取っています。本推計が目標とする出生率はその10%増となる1.61です。これは平成1~9年の出生率の実績に近く、各種施策によって十分に到達可能な数値であると考えられます。

図表 6-3 出生率10%増加および若者24人転入増の場合の将来人口推計

昭和58~62年	平成1~4年	平成5~9年	平成10~14年	平成15~19年	平成20~24年
2.13	1.63	1.57	1.28	1.42	1.46

出典 人口動態保健所・市町村別統計

以上の二点に加え、本村では2014年に松姫トンネルが開通し、交通の利便性が大きく向上したことから、進学や就職のために村外に転出していた若者世代の引き止めや、本村への移住を検討する人々の後押しとなることが期待できます。

本推計は2010年の国勢調査の結果をベースとしているため、以上のような近年の人口動態上の正の要因を考慮していません。したがって、現在の状況に加え、就業や出産・子育て環境の整備などを適切に実行していけば、本推計の目標は十分に達成することが可能だと考えられます。

2) 将来展望人口の分析

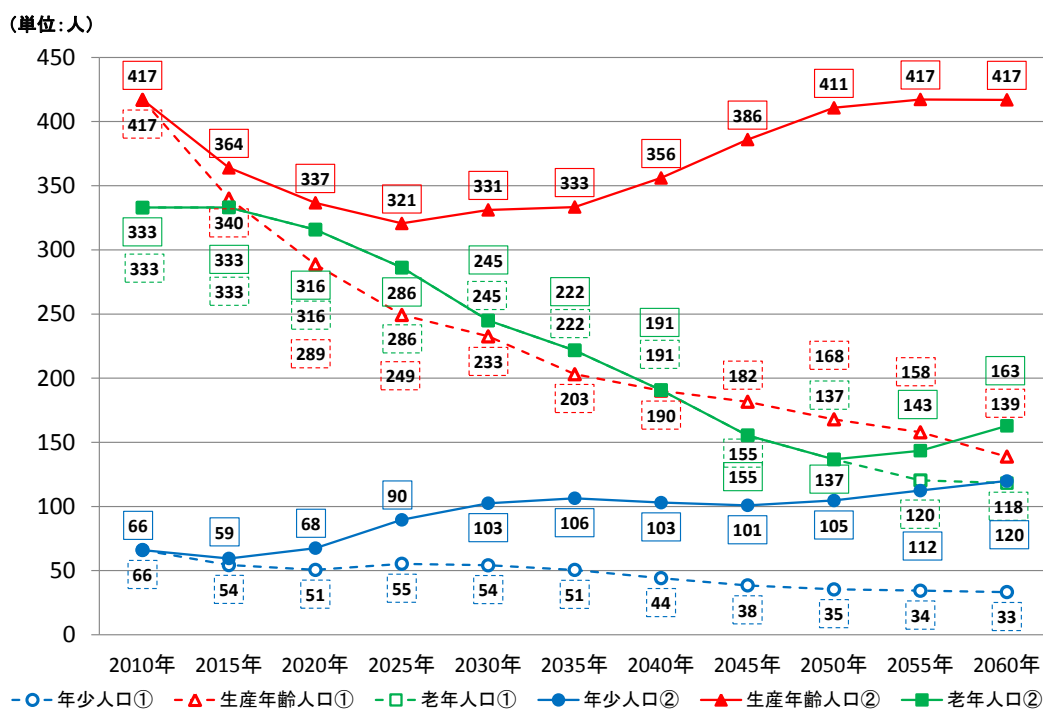
以下では、出生率と転入がともに現状トレンドのまま人口が推移したパターン<シナリオ①>と、将来展望人口に採用した推計パターン（出生率10%増加および現状トレンドに5年ごとに若者224人の転入増）<シナリオ②>を比較検討します。

具体的には、年齢構成の推移を検討するために「年齢3区分別人口」、また村民の意向にも見られた教育環境の観点から「年齢階級別の年少人口」、最後に全体的な傾向を把握するため「総人口」を比較検討します。

(1) 年齢3区分別人口の推移（将来展望）

シナリオ①では、全ての区分の人口で減少がみられました。年少人口、老年人口はおおよそ半数となりますが、生産年齢人口では70%程度もの減少となり、年齢構成の悪化に歯止めがかからない状況が確認できます。

シナリオ②では、年少人口が2060年時点でおおよそ2倍増加しています。生産年齢人口は2025年までは減少しますが、以降は増加に転じ、2060年時点で現状と同数の維持となっています。これらの傾向に加え、老年人口は2010年の実績値のおおよそ半数となることから、人口構造の大幅な若返りが達成されます。



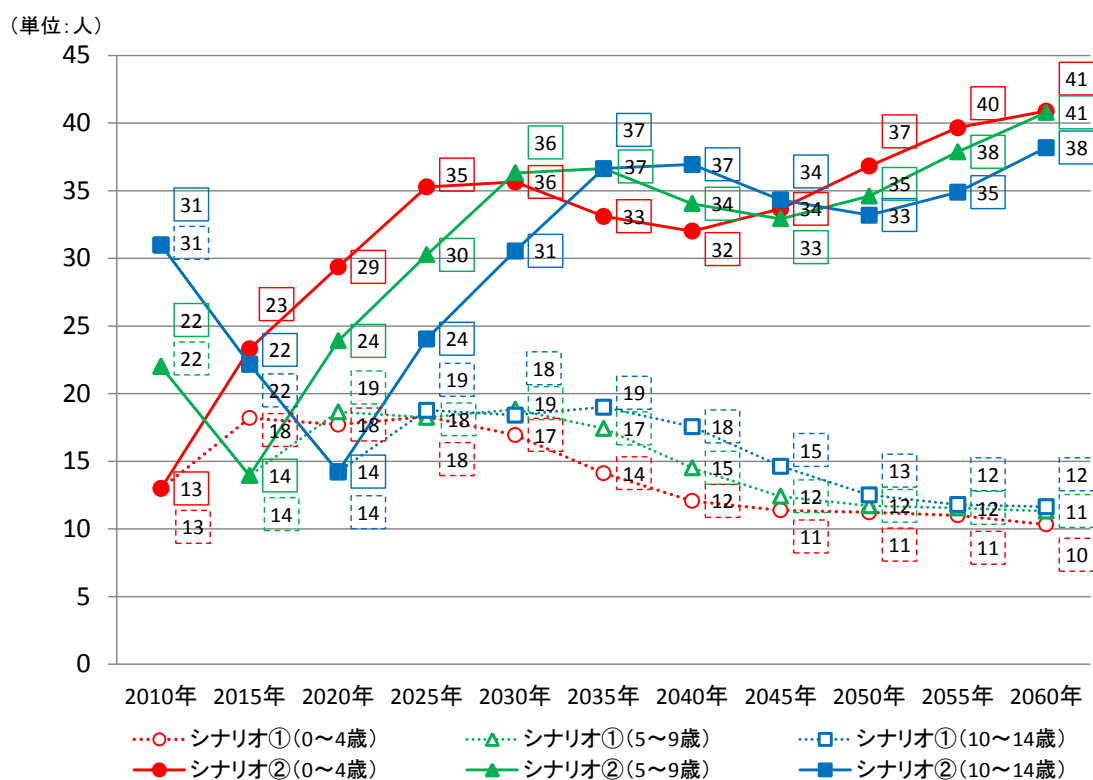
		2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
シナリオ① 出生、転入 ともに現状	年少人口①	66	54	51	55	54	51	44	38	35	34	33
	生産年齢人口①	417	340	289	249	233	203	190	182	168	158	139
	老年人口①	333	333	316	286	245	222	191	155	137	120	118
シナリオ② 出生率増加 ×若者転入	年少人口②	66	59	68	90	103	106	103	101	105	112	120
	生産年齢人口②	417	364	337	321	331	333	356	386	411	417	417
	老年人口②	333	333	316	286	245	222	191	155	137	143	163

図表 6-3 年齢3区分別人口の推移

(2) 年齢階級別の年少人口の推移 (将来展望)

シナリオ①では、2060年の段階で全ての年齢階級で現状値を下回る結果となっています。同年では各学年2人程度しかおらず、複式学級の解消は達成されません。

シナリオ②では、2020年以降、全ての年齢階級で人口が増加に転じる状況がみられます。2030年から2045年ごろまでは増加数が足踏みしますが、以降再度増加に転じ、2060年にはどの年齢階級も40人程度まで増加します。この場合、各学年の構成人数は6~7人となり、村民が望む複式学級の解消が視野に入ります。



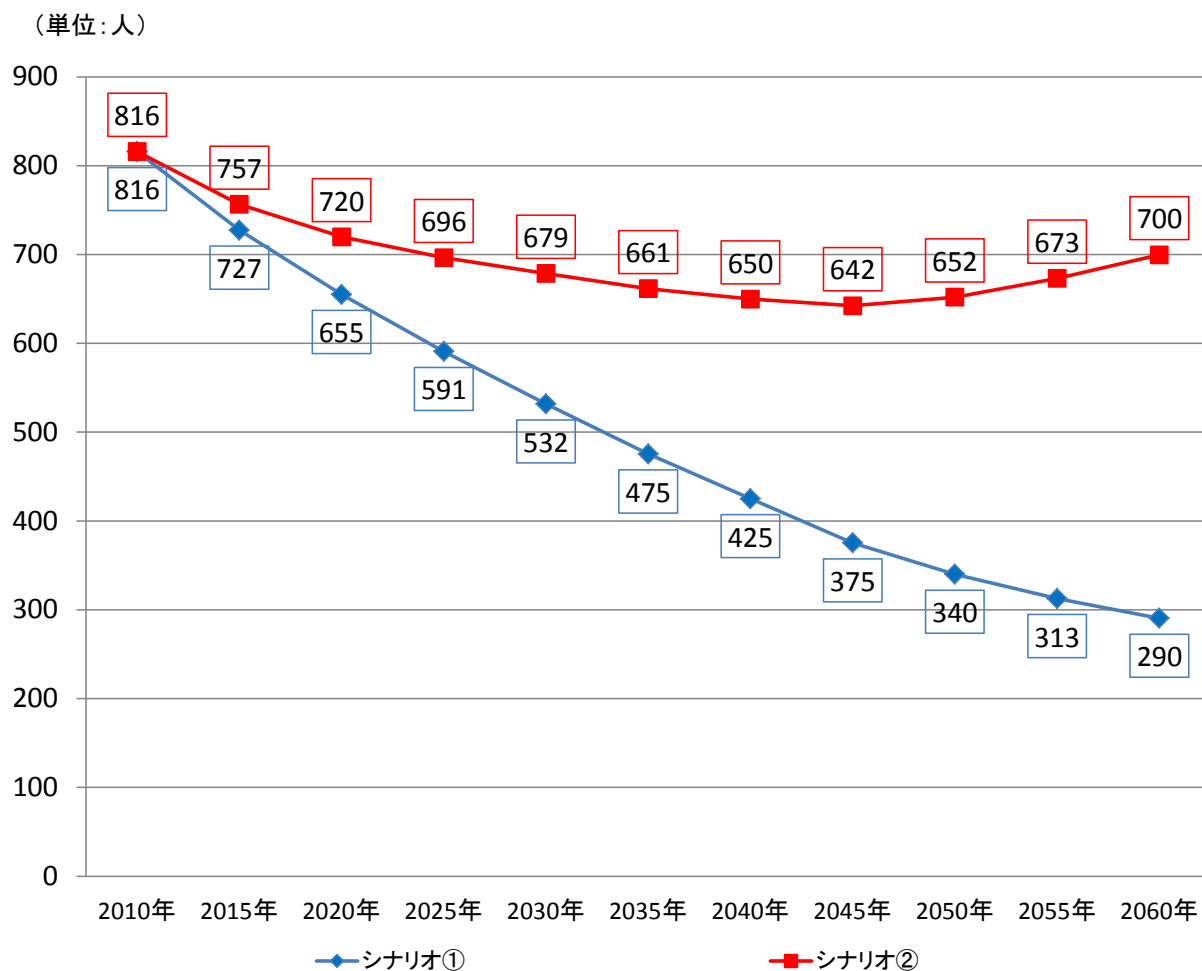
		2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
シナリオ① 出生、転入 ともに現状	0~4歳	13	18	18	18	17	14	12	11	11	11	10
	5~9歳	22	14	19	18	19	17	15	12	12	12	11
	10~14歳	31	22	14	19	18	19	18	15	13	12	12
シナリオ② 出生率増加 ×若者転入	0~4歳	13	23	29	35	36	33	32	34	37	40	41
	5~9歳	22	14	24	30	36	37	34	33	35	38	41
	10~14歳	31	22	14	24	31	37	37	34	33	35	38

図表 6-4 年齢階級別の年少人口の推移

(3) 総人口の推移（将来展望）

シナリオ①では下落傾向に歯止めがかからず、2060年に300人を割る状況となっています。

シナリオ②は緩やかに人口が減少する傾向が続きますが、2045年に底を打ち、以降人口は増加局面に転じることが確認できます。2060年には、人口700人を回復します。



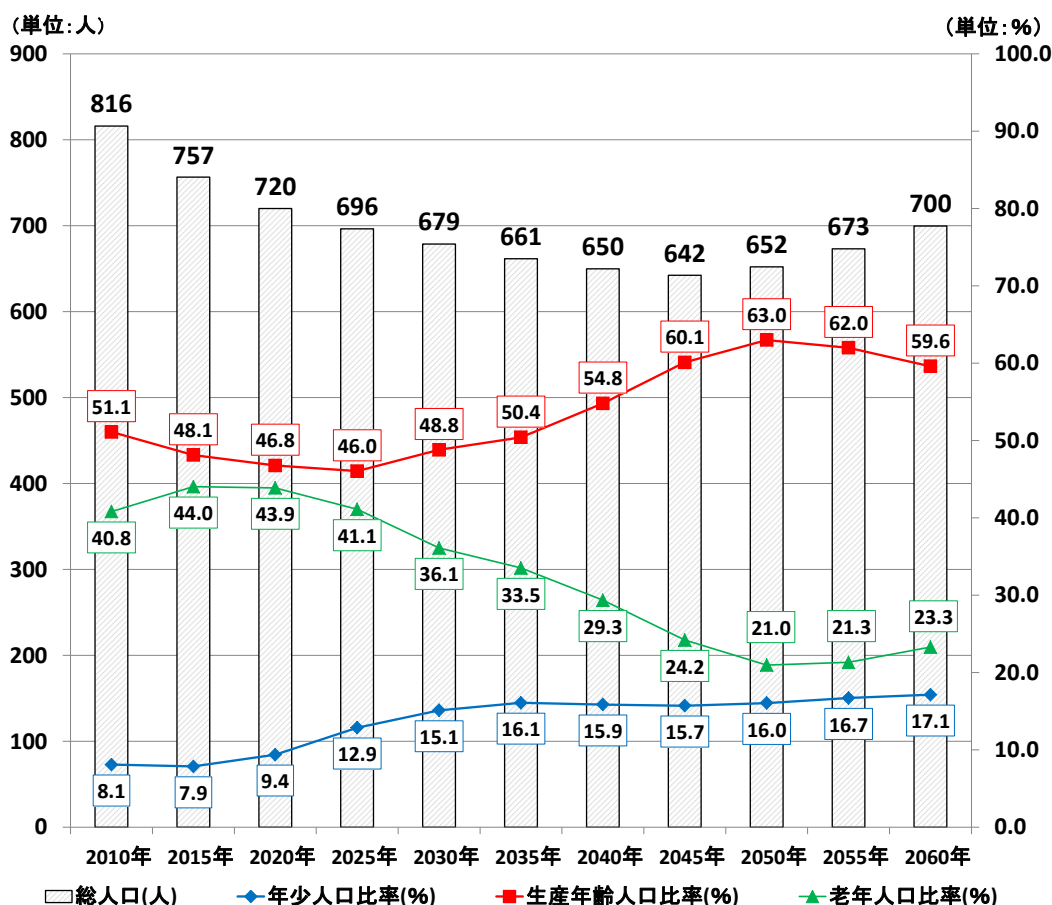
図表 6-5 総人口の推移

3) 将来展望人口のまとめ

総人口自体は2010年と比較して100人程度の減少となりますが、人口構成比の観点からは、年少人口比率および生産年齢比率の上昇と、それに伴う老年人口比率の低下が確認にすることができます。具体的には、現状で40%程度ある老年人口比率が25%程度まで減少し、生産年齢人口比率が60%程度まで上昇しています。年少人口比率は約10%増の17.1%でした。このことから、将来目標の一つであった人口構成の若返りを十分に達成しているものと評価できます。

また総人口についても2045年に底を打ち、以降、増加に転じています。これは人口構成が若返り、子育て世代が増えたことに大きく起因しています。

これらの二点から、本シナリオの実現に向けた取り組みを適切に実行していくことができれば、将来の本村に向けて持続可能な人口の状況が築かれていくものと考えられます。



	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口(人)	816	757	720	696	679	661	650	642	652	673	700
年少人口比率(%)	8.1	7.9	9.4	12.9	15.1	16.1	15.9	15.7	16.0	16.7	17.1
生産年齢人口比率(%)	51.1	48.1	46.8	46.0	48.8	50.4	54.8	60.1	63.0	62.0	59.6
老年人口比率(%)	40.8	44.0	43.9	41.1	36.1	33.5	29.3	24.2	21.0	21.3	23.3

図表 6-6 小菅村の総人口・年齢3区分別人口比率の推移 (将来展望)